

Origami Tanteidan Newsletter 折紙探偵団新聞

41号

祝改装



第五回・道は険しくの前編

今回と次回では、「不切正方1枚で折るということ」について考えてみます。ところで、なぜ「正方形で折るということ」ではなく、「はさみを使わないで折るということ」でもなく、「不切正方1枚で折るということ」なのでしょう。この問題の重要性は、前川淳の「折紙博物誌第2部(折紙探偵団新聞第5巻)」で議論されていますので、ここでは簡単に説明します。

ふつう折紙を折るためには、まず紙を正方形に切らなければなりません。その正方形の紙から出発して、折るだけで作品をつくれれば「不切」、切り込みを入れれば「不切でない」といわれます。しかし、正方形に切る前の紙を出発点と考えれば、私たちは常に紙を「切って」います。また、正方形の紙にあらかじめ切り込みを入れて、その時点を出発点と考えれば、それは「不切」であるということになります。

複合作品についても、複数枚の紙による作品と見ることができると同時に、1枚の紙から出発して、はさみを使ってつくる作品と見ることが出来ます。このように、「不切」「正方」「1枚」は密接に結びついていて、分けて考えることはできないのです。

3弁のあやめ

例えば伝承作品の「あやめ」を考えてみましょう。実際のあやめは3弁ですが、折り紙のあやめは4弁です。そこで、3弁のあやめを折ることを考えてみましょう。

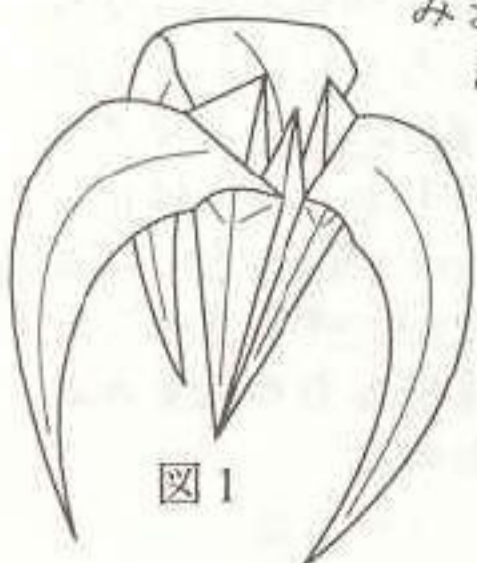


図1

まず、正三角形

の紙を使えば3弁のあやめを折ることができます。ところが、実際折ってみると、バランスが違ってしまい、伝承のあやめの持っている雰囲気や失ってしまいます(図1)。これでは、あやめではなくて別の作品になってしまいます。



本来のあやめの角の配置や角度を保ちつつ、しかも3弁にする方法があります。平面の紙から出発するのではなく、図2のような、三角錐の側面の

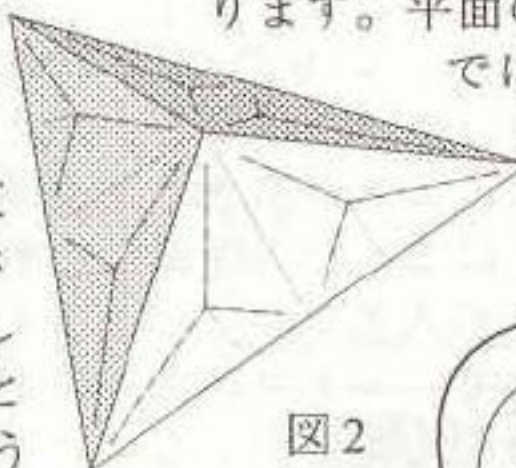


図2

形をした紙から出発すれば、伝承のあやめと全く同じプロポーションをした、3弁のあやめができます(図3)。

これでは「折紙」らしくないと感じる人もいるでしょう。それはきっと、出発の時点ですでに紙が立体になっているからでしょう。それなら、正方形の紙から出発して、折るだけで図2の形をつくることのできるのならどうでしょう。実際、正方基本形の角を1つ折り込むことによってそれは

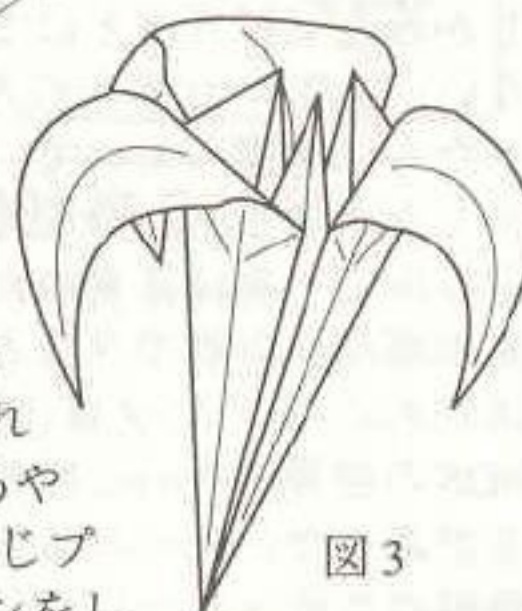


図3

可能です(図4)。こうすると、何やら「折紙」らしくなってきます。

しかし、実際に折ってみると、はじめに折り込んだ部分が

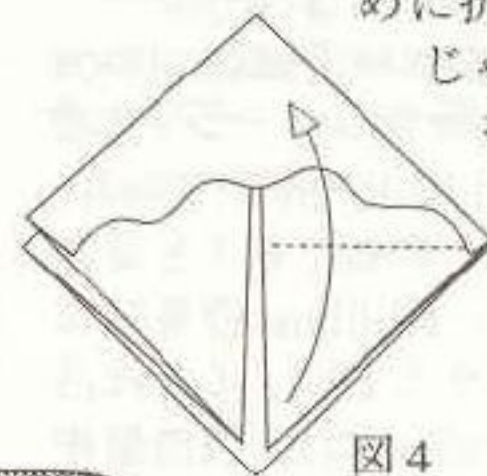


図4

じゃまをして非常に折りにくいことに気がつくでしょう。この部分は図2の形をつくる働きしかしていません。ところが、この

形をつくるためには、こんなに大きな部分は必要ないのです。例えば図5のような紙から出発すれば、折るだけでも十分に3弁のあやめが出来ます。それならどうして、わざわざ正方形から折ろうとするのでしょうか。

まとめ

3弁のあやめを不切正方1枚で折ることは可能ですが、この場合、紙の多くの部分を無駄にしていることにな



図5

ります。そればかりか、ある部分は作品を折りにくくするするためだけに使われています。3弁のあやめを折る際に、正方形から出発する必然性はなく、むしろ図2の紙から出発することに必然性があります。もし、図2の紙から出発する作品は「折紙」とはいえないと考えるなら、そして不切正方1枚による3弁のあやめは不切正方1枚であるがゆえに「折紙」であると考えたら、それは、本来「折紙」ではないものを無理矢理「折紙」にしたといわれなければなりません。不切正方1枚であるからといって、すべてが折紙であるとは限らないかもしれないのです。

ご意見、ご感想、ご質問、ご反論等どしどしお寄せ下さい。



折紙時評

第1回
ブックレビュー
(その1)

まえがわ じゅん Jun Maekawa

前川 淳

■最近あまり創作もせず、すっかり折り紙評論家となった前川が、折り紙の本をはじめ、折り紙に関連する記事などを紹介する。第1回目はブックレビュー。「折紙辞典」よりはすこし真面目路線でいくつもりだが、この先どうなるかは保証の限りではない。

「Brilliant Origami」

David Brill 著 Japan Publications
96年1月刊 B5版240ページ \$20

BrillさんのBrilliant. 洒落である。「山口真の、まことの折り紙」も是非出版してほしい。Brilliantの意味は「輝かしい」ということで、この作品集に相応しい。と言っても、彼の髪や頭の話をしているのではない。代表作約100点が彼自身の手描きの図によって掲載されているこの本は、意外に思うかもしれないが、彼の最初の作品集である。同時に、彼の作品のほぼ全貌をつかむことができる1冊でもある。生き生きとした表情のある作品が多いが、わたし自身は、そうした微かなタッチを生かした作品よりも、「ボルトとナット」や「蓋つきの箱」のような幾何学的な作品の方が好きだ。彼がそれだけ幅広いレパートリーを持っているということでもある。

「ハード・シェル」

Dean R. Koontz 他著 早川文庫
90年3月刊 480ページ ¥700
恐怖小説の中短編12話が収録されているアンソロジー。最近読んだというだけで、新刊ではない。恐怖小説なので、ひとがばたばた死んだり、化け物が跳梁跋扈したりするが、そうでもない話もいくつか含まれている。ディーン・クーンツの「黎明」という作品は、家族を喪った無神論者の葛藤をえがいた話で、その中にこんな文章がある。「大宇宙の尺度で考えれば、ピラミッドでさえオリガミと同じくらいはかない」(大久保寛訳)「オリガミ」とカタカナで書いてあるので原文も「origami」なのだろう。英米の小説で「紙屑のようにひしゃげた」というのは、事故描写の常套句の感があるが、「オリガミと同じくらい」という比喩は初めて見た。否定的な比喩なのだが、わたしはこの表現

にむしろ諸行無常の美学を感じてしまった。世界は折り紙のようにはかない。それゆえ尊い。

「アラジンの灯は消えたか？」 - 2 4 3 5 6 (伏見語録) -

伏見康治著 日本評論社 96年
11月刊 B6版230ページ ¥2200

副題は2 4 3 5 6で伏見語録と読む。洒落である。「折紙、忘れてもらっては困る、伝統文化の新しい展開が始まっている」というエッセイの一節に、(臆面もなく紹介するのは我ながら厚顔だと思うが)「前川淳さんはすばらしい」と書いてある。「彼は数理を意識して紙を折った初めてのひとではなかろうか」とも書いてある。過激な言葉である。さて、よく見るとこれが「紙を折った」になっている。不信心なわたしはあまり「カミをイノった」りしない。狙ったようなこの誤植には苦笑したが、つい最近遭遇した誤植の三振奪取王とでも言うべき本に比べればかわいいものだ。野茂投手のことを書いた「NOMO」というペーパーバック、これがすさまじかった(折り紙とはまったく関係ない)この本、日本人の人名がめったやたらに間違っていて、エナツユカタとかオーサダハロなんてのがぞろぞろ出てくる。「江夏ゆかた」なんて、夏の海岸、浴衣で夕涼みといった風情である。そういえば、吉野一生氏もBOSの会報にIssieと書かれていたことがあった。イッシー。石狩川に棲む怪獣の名前みたいだ。当方も「折紙辞典」でBrillさんの名前DavidをDev-idと書いたりして、ひとのことは言えない。

「ISSEI SUPER COMPLEX ORIGAMI」

吉野一生著 おりがみはうす
96年10月刊 B5版200ページ ¥2900

図がすばらしい。目で追っているだけで、実際に折ったような気がしてくる。作品の多くは折紙探偵団新聞に掲載されたものだが、きれいな印刷でひとつにまとまると、また格別である。何度か「読み返した」ためか、重箱の隅をつつくのが癖になっているためか、この本でも誤植を見つけてしまったが、図は限りなく正確である。「手抜き折り図の創始者」としては小さくなるほかない。また、「写真写りがよくない」(実際に会ったほうがはるかにハンサムである)というのが定説だった吉野氏だが、カラーの口絵には、作品とともに、いい表情をした彼の写真が多数並んでいる。探偵団員必携の本である。

「ひまなし山暮らし」

布施知子著・鳥海太郎絵 筑摩書房
96年11月刊 B5版190ページ ¥1500

布施さんと太郎さんの信州八坂村での毎日をつづったエッセイ。冬の厳しさも楽しげな(?)山暮らしは、気楽に生活をしている代表選手と目されている川崎敏和さんをもうらやましがらせた。アオゲラに家をつつかれることを心配するひとがちらりとでてくるが、これはわたしのことである。実際、彼らの巣作りの時期は警戒を怠ってはならない。我が家の軒下からは彼らの雛が何羽か巣立っているが、天井裏に巣を作られると、屋根裏に寝室がある身としては、うるさくてかなわない。だいたい、穴の開けやすそうな軒の杉板を狙うなんて、キツツキにしちゃ怠慢じゃないか。なお、わたしが「八ヶ岳のログハウスに住んでいる」というのは正しくない。行ったり来たり、わたしはどこにも住んでいない。その意味でもしっかりと生活を楽しむ布施さんと太郎さんがまぶしい。

岡村昌夫

第28回

おかむら まさお Masao Okamura

■もう今年も終わりだ。来年は千羽鶴だ。

おりがみ庵

ひとりで



[奴と奴袴]

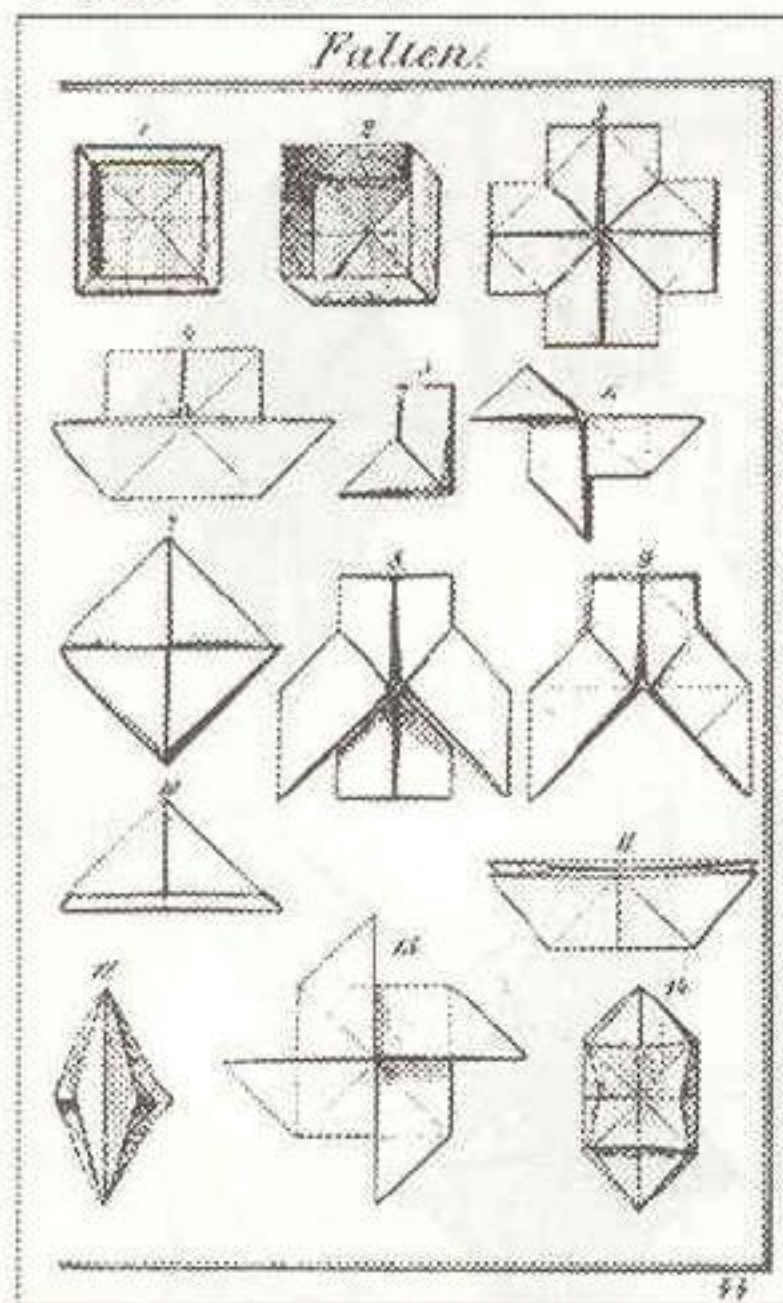
「奴風」と称されていたものが、明治40年9月発行の阿部七五三吉著『普通手工提要』で「奴」と書かれて以後、たちまちに普及した状況は前回に記した通りである。それでは何故「奴」に替ったのだろうか。あの袖を左右に広げた形には「奴風」の方がむしろふさわしいのではあるまいか。それをわざわざ「奴」のように曖昧にして、しかもそれが急速に普及したのは何故なのだろうか。

それは、「袴」と組み合わせることが行われ出して広く受け入れられたことによるのではないかと考えるのである。初めて「奴」と命名した前記の『普通手工提要』は、「奴」と並べて、従来「ももひき」だったものを「奴袴」として掲載している。このときこの両者が組み合わせられたことになろう。あるいはこの組み合わせがすでに行われていて、それに「奴」「奴袴」という見立て変更がされたのかも知れない。

いずれにしても「奴袴」という語は、折紙の「奴」が存在しなければ成り立たないのである。「いつも奴さんは高ばしより」と唄われているように、現実のやっこさんは袴をはかなかったから、「奴袴」などという物は折紙の世界にしか存在し得ないのであるが、「奴風」には袴を付けられないので、とりあえず「奴」にしたのだろう。そのとき他にもっと適切な見立てがあればよかったのかも知れない。現代だったら「忍者」と「忍者袴」に見立てるといったことが考えられる。現に外国では、この組み合わせで「武芸者」とか「ニンジャ」とか云っているようだ。

ところで「奴」は日本の伝承折紙の中にあっただけで、「袴」は明治初年にフレーベルの保育法とともにドイツから輸入された折紙の中にあっ

たもので、明治9年に開園したお茶の水の附属幼稚園の『恩物図形』や、その元になった Hermann Goldammer 著『Der Kindergarten』(1874年刊)では、後にわれわれが「提灯お化け」に見立てたものと組み合わせている。「上着 (Jacke)」と「ずぼん (Hose)」である。(図版参照)



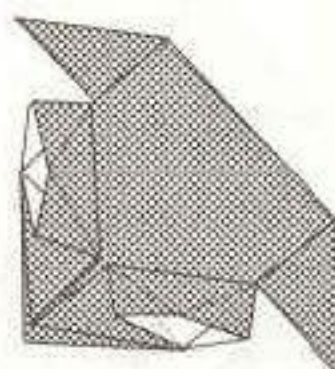
[国際的複合折紙]

ヨーロッパの伝承折紙は、ザブトン折りを繰り返して作るものが中心で、スペインで有名なパハリータ(小鳥)をはじめ、勲章・長靴・いくつかの種類の船等多数があり、中にはダブル・ボートのように日本の伝承作と見立て方まで全く同じものもあるが、「やっこさん」はなかった。要するにヨーロッパでは、あの形は何にも見立てられなかったわけだ。「ずぼん」は日本には無く、輸入されて「ももひき」から「奴袴」へ転身したのである。してみると「奴」と「奴袴」は東西融合、国際親善の象徴的おりがみと言えるのである。

それなのに、現在おおかたの日本人は、折紙の専門家と言われる人々を含めて、外国から入って来た折紙の存在すら知らず、すべてが日本の伝承と思っている。

そうってしまったことにはいろいろ理由が考えられる。ひとつには明治期の人達が、素晴らしい見立てをしたり、新たな遊び方を発明したりしたことが関わっているだろう。前に書いたことがあるが、『をる』No.10に伝承として出ている「いろかえあそび」はヨーロッパの塩皿(ソルト-セラー)だったし、向こうの「帆船」を「だましぶね」にして遊んだのも明治の人達だった。現代の人が昔からずっと伝承された日本の折紙だと思っても仕方が無いような日本化ぶりである。

しかし、「おりがみ」は外国にもあったのだ。起源は製紙法が発明された中国に当然あったとか、日本よりも古く12世紀にはヨーロッパにあったとかいう類の、古い昔のことを言う人の話は原状では信じ難い点が多い。しかし、近世において、享受層の厚さ・広さ、種類の多様さなどは比較にならないまでも、外国でも「おりがみ」は発達していたことを日本人は認識すべきなのである。



香港から来た蛙

ヨーロッパ系と同じ基本形から

最近、香港折紙協会会長の超さんが中国の伝承という蛙を折って送ってくれた。素晴らしい蛙である。中国にも、いつごろからかは分からないが伝承折紙があった。ただ明治以後に日本のものと入り交じってしまったために今となっては詳しいことは分からないと、かつてシェン博士が言っておられた。

F-15 イーグル

第 2 回 (3 回連載)

F-15 Eagle

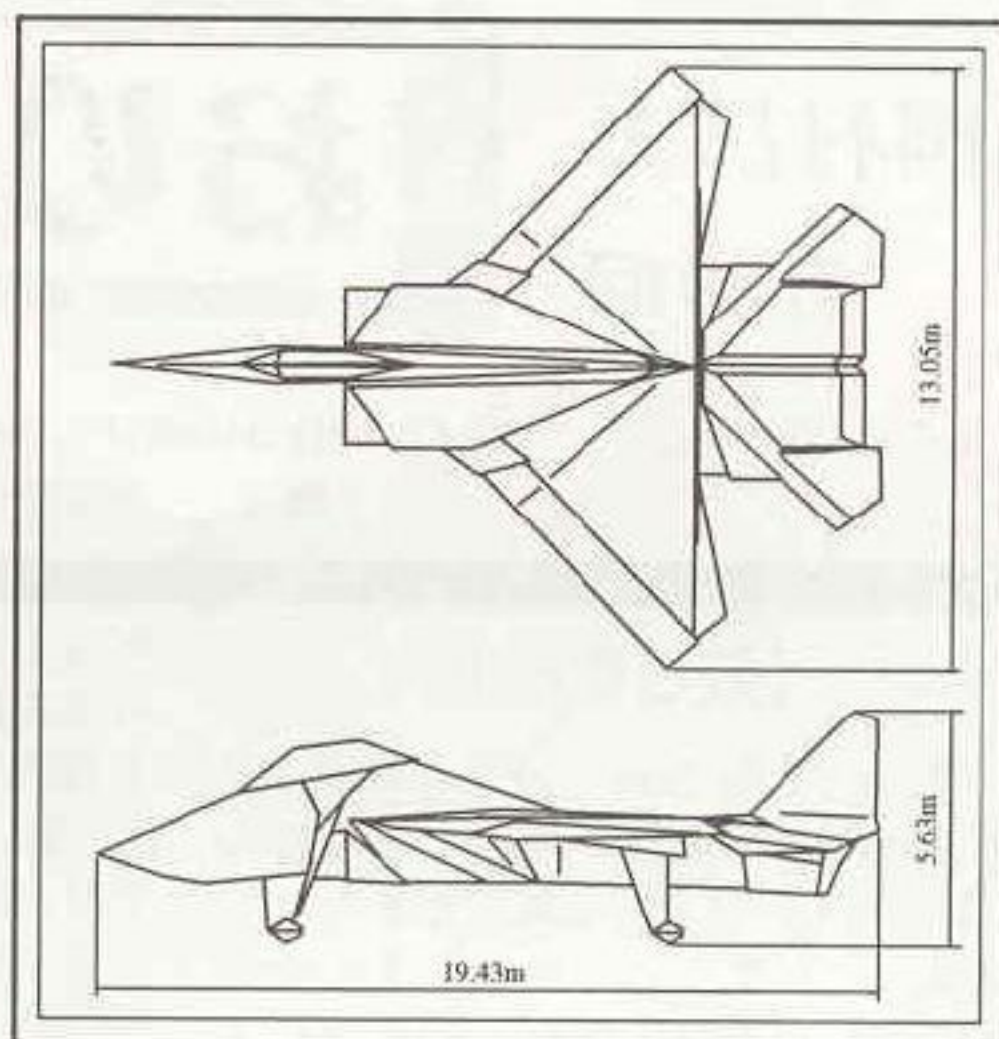
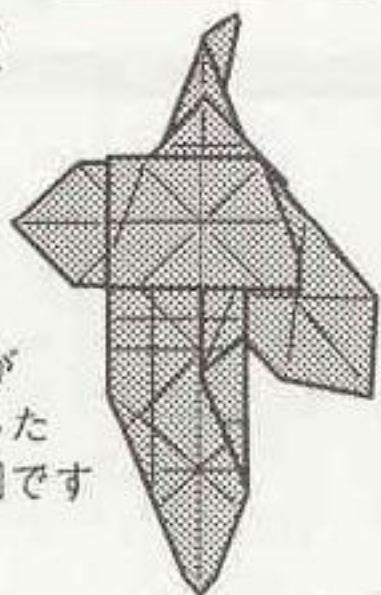
吉野一生

Issei Yoshino

トレース: 木村良寿

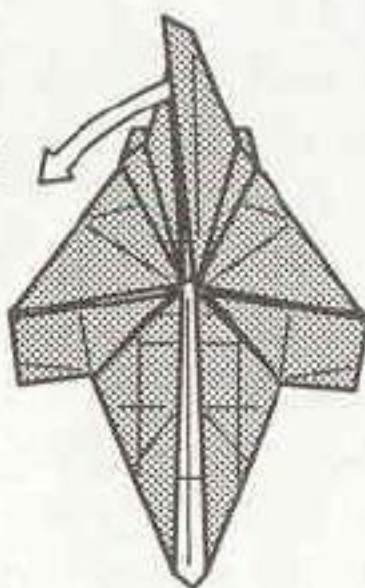
図 (39) 訂正

おわび
前号の図 (39) が
間違っていました
これが正しい図です



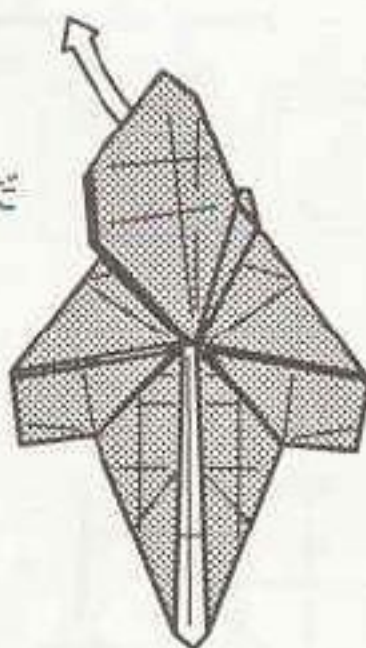
(53)

中に
折り込んだ
部分を
引き出す

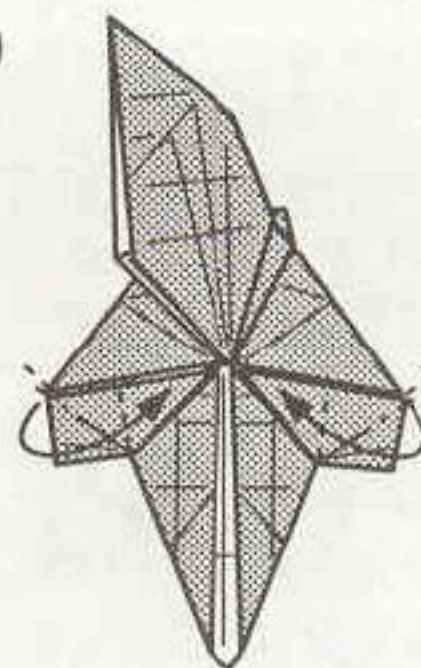


(54)

さらに
折り込んだ
部分を
引き出す



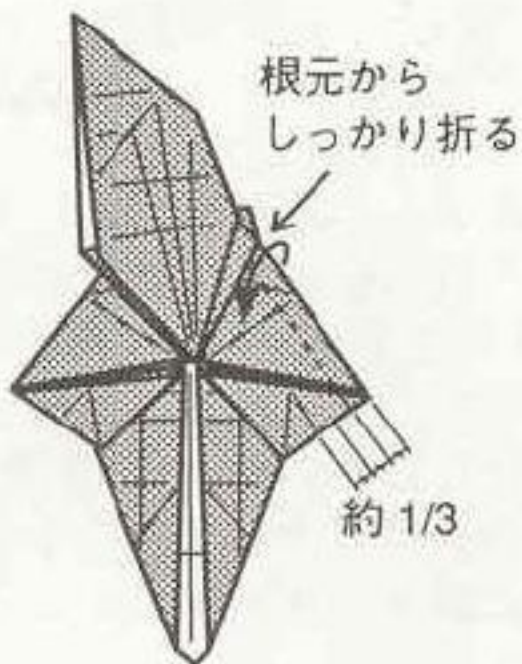
(55)



(56)

根元から
しっかり折る

約 1/3

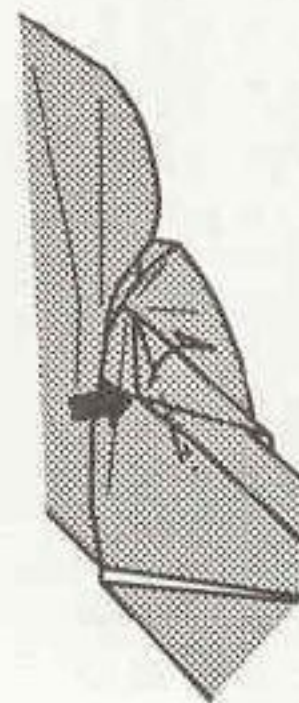


(57)

袋状の中が
見えるように
少し開く



(58)



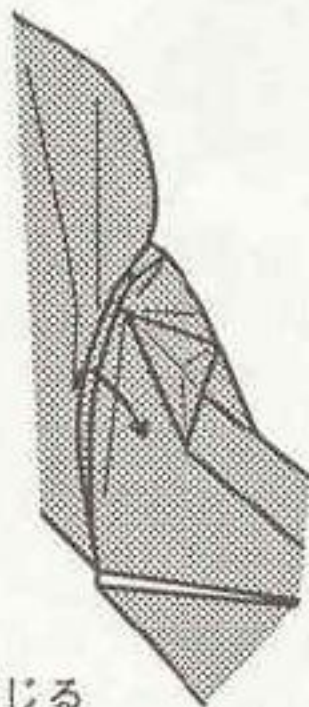
(59)

ひろげて
つぶす



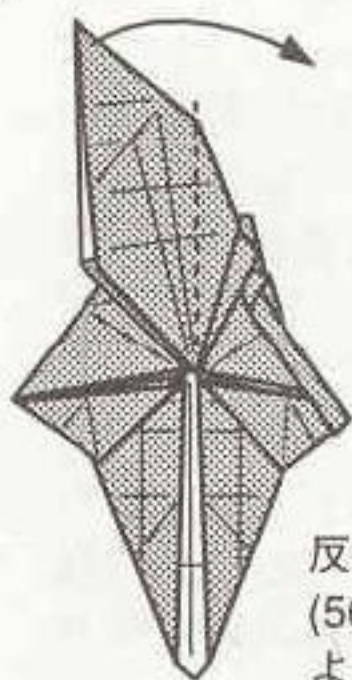
(60)

閉じる

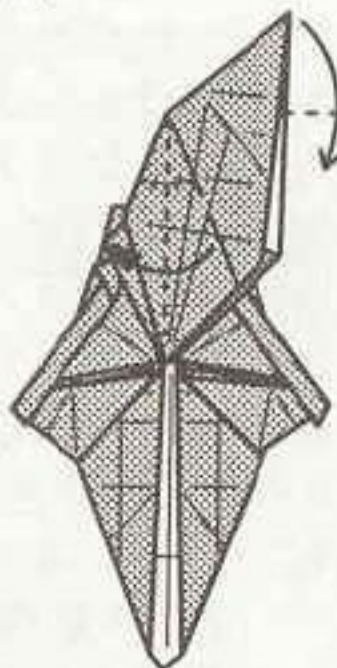


(61)

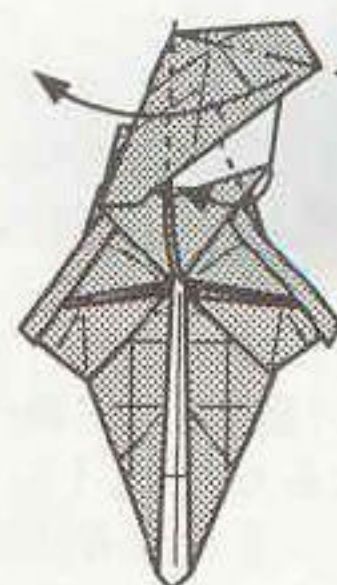
反対側も
(56)~(60) の
ように折る

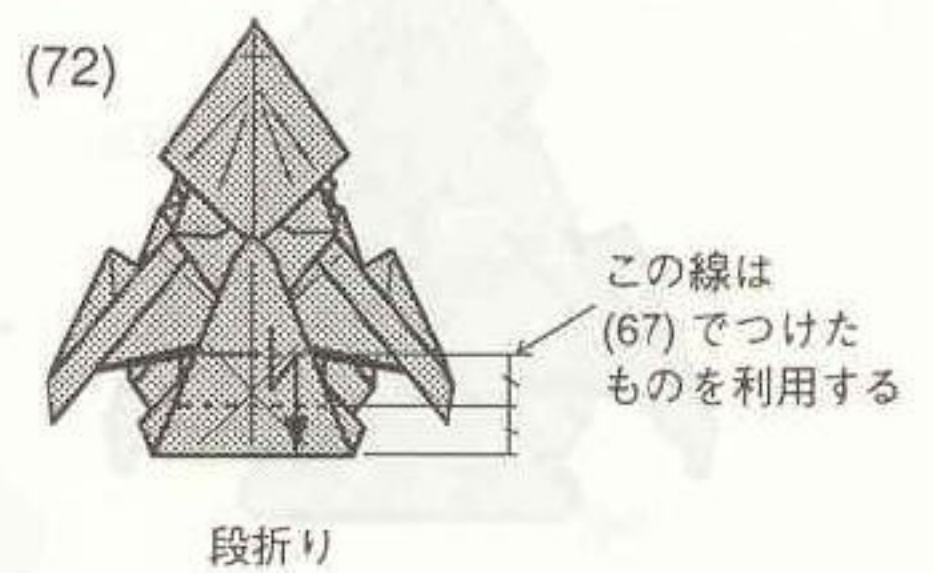
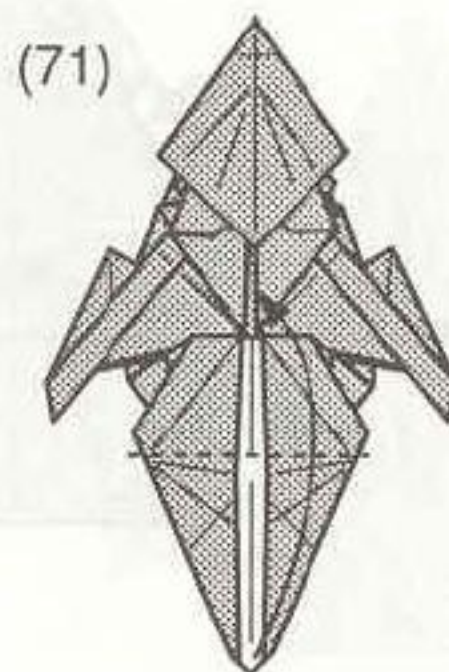
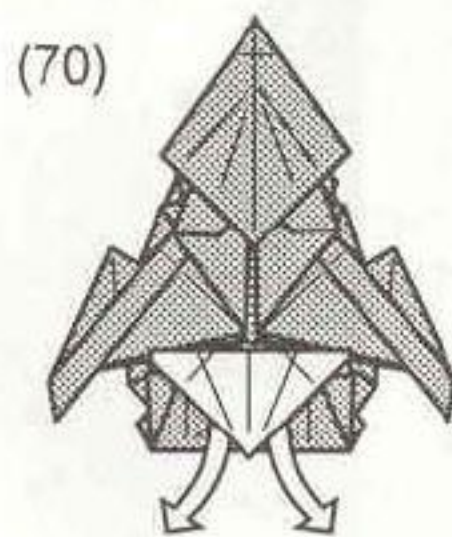
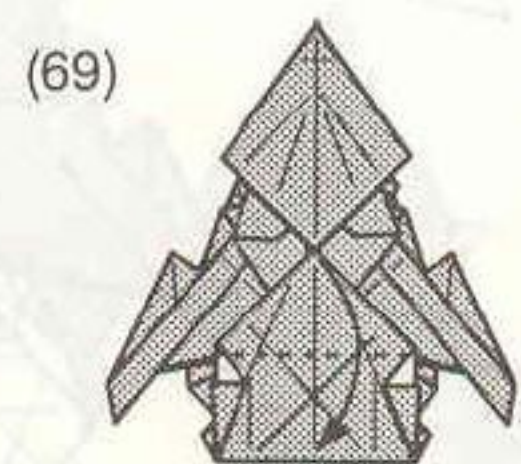
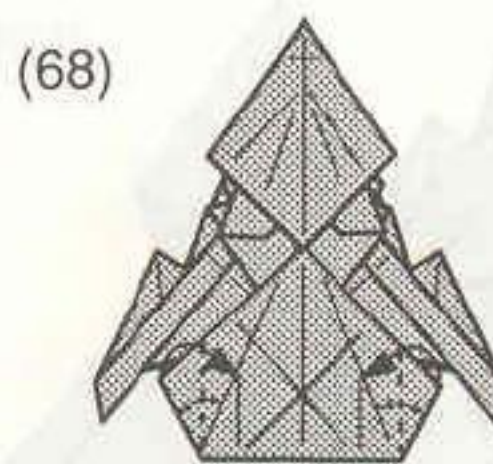
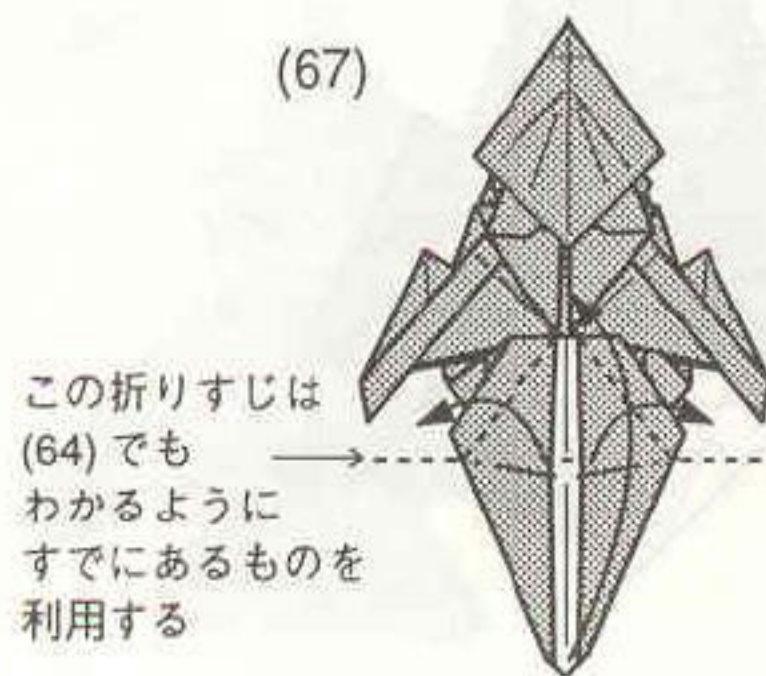
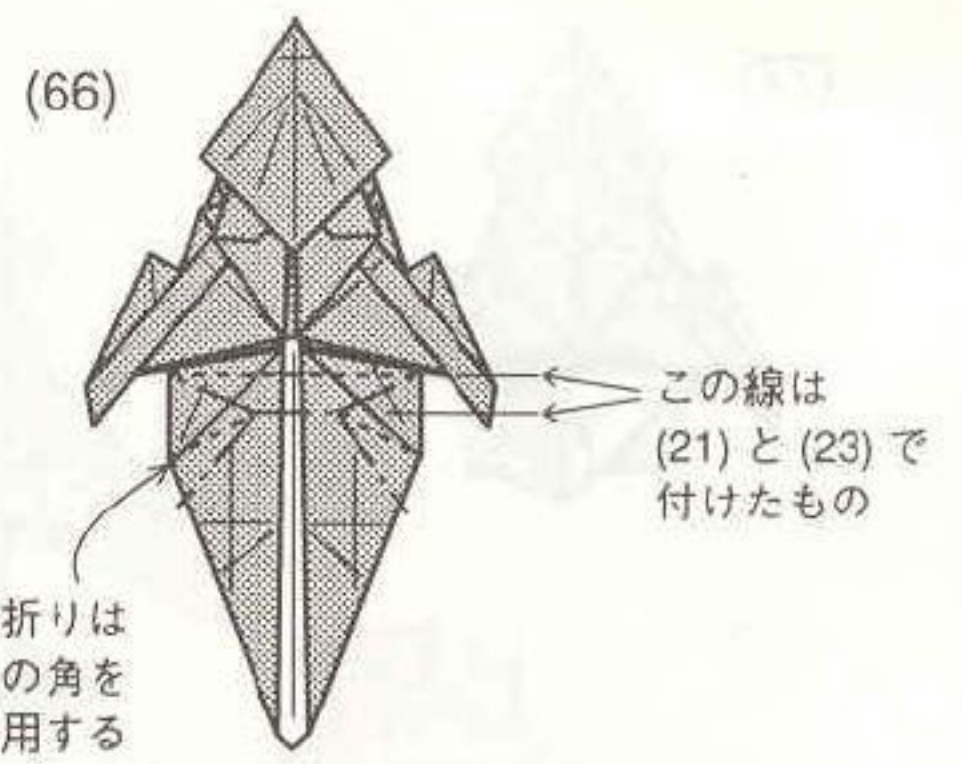
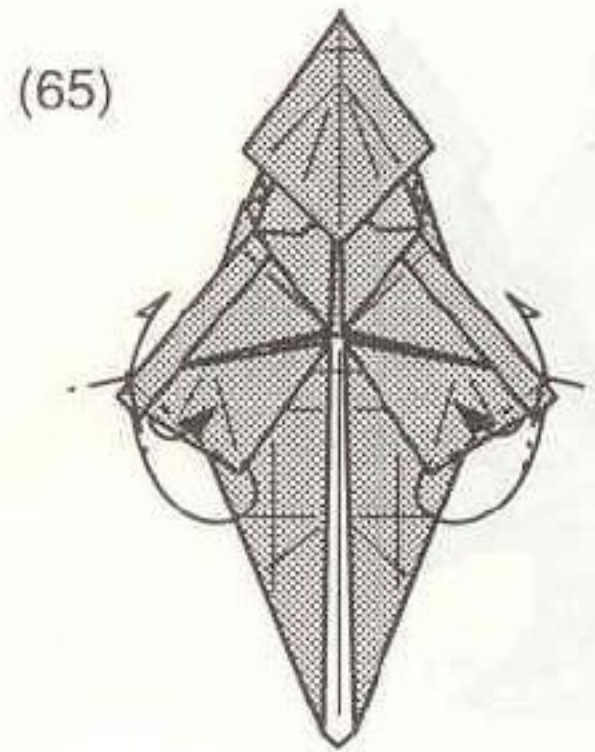
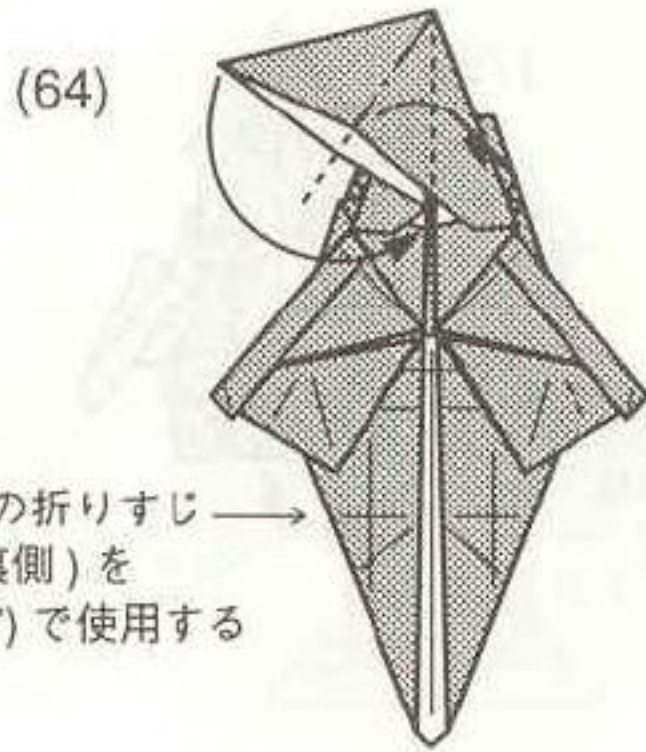


(62)

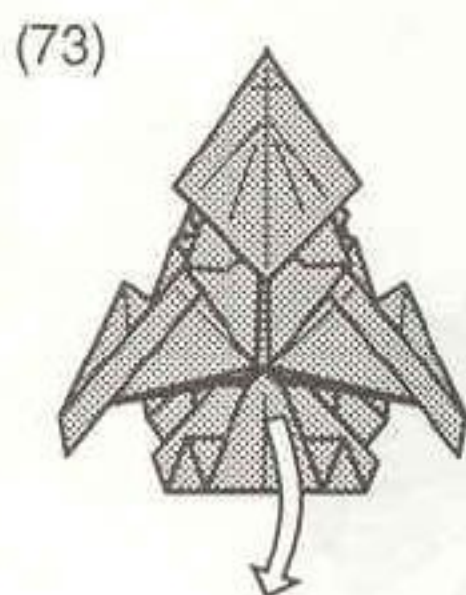


(63)

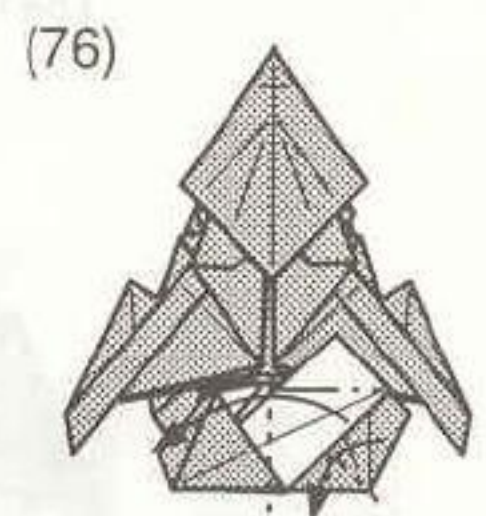
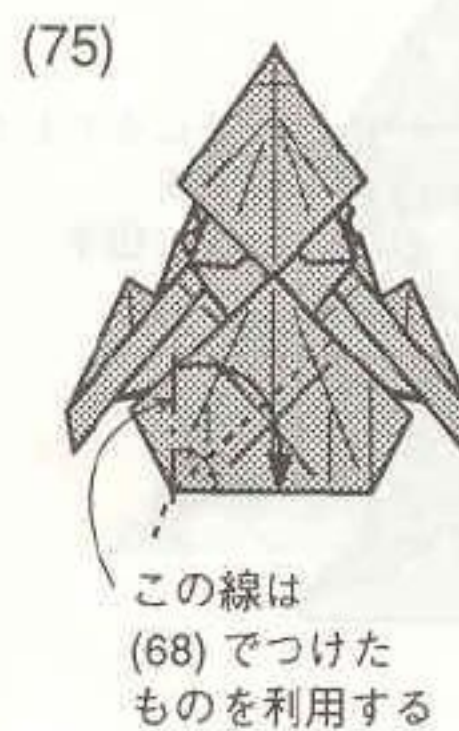
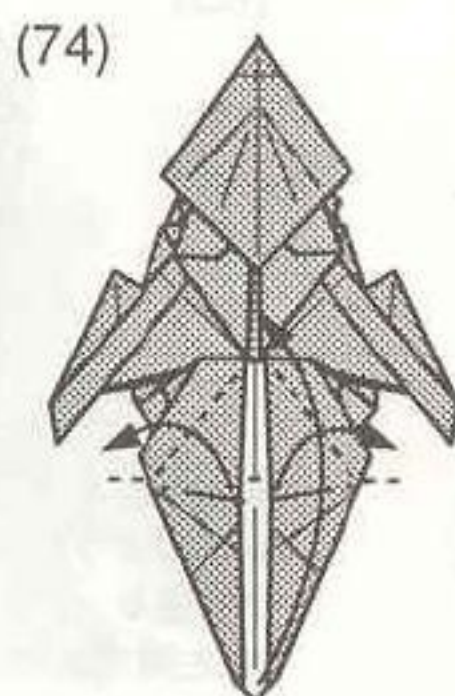


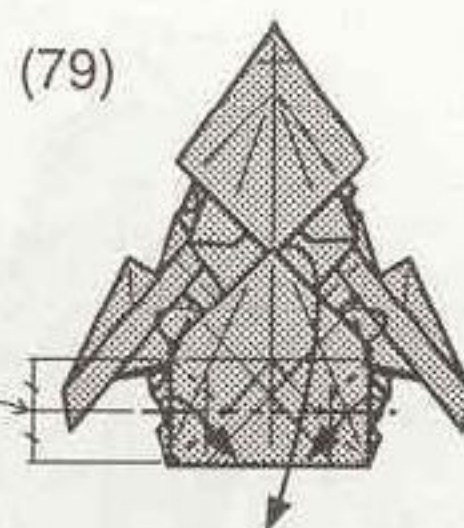
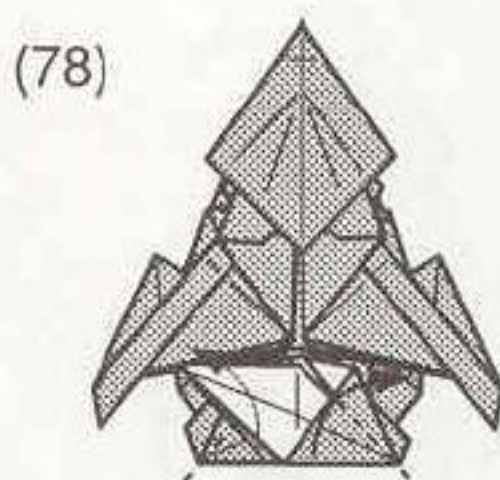
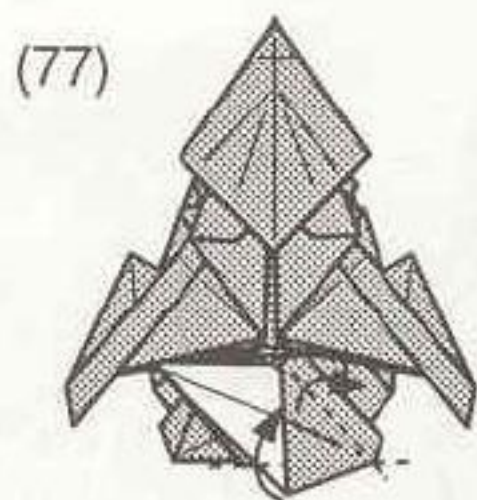


(67) までもどす

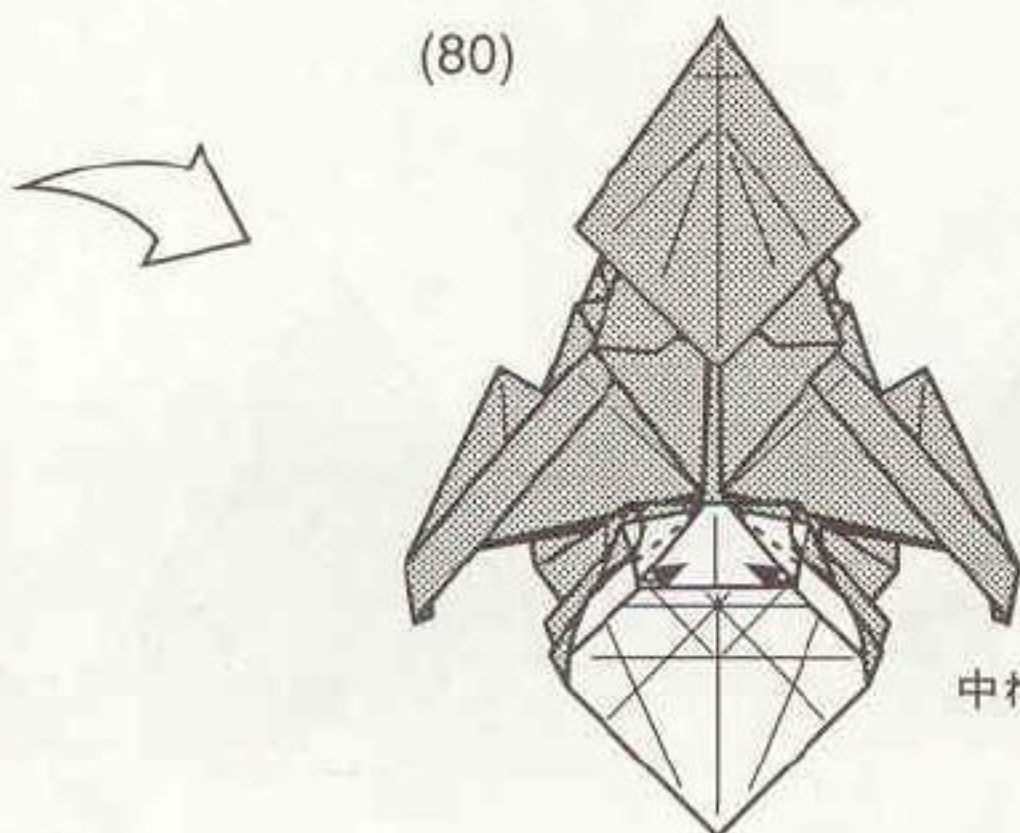


広げる

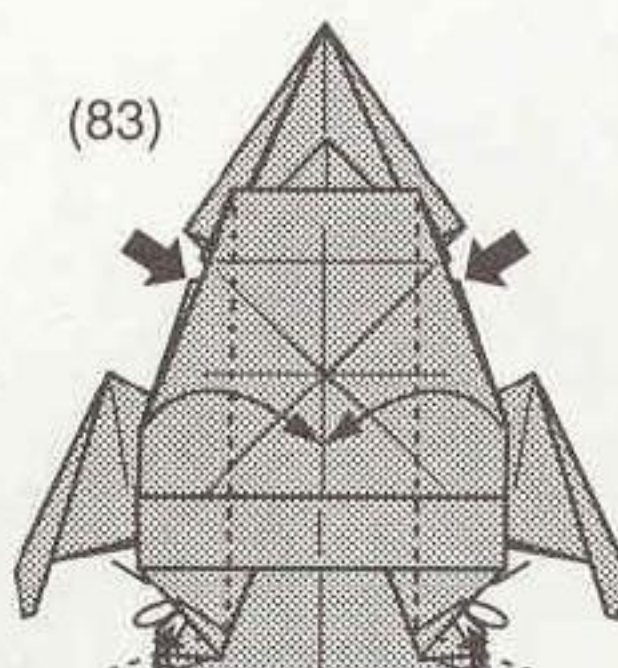
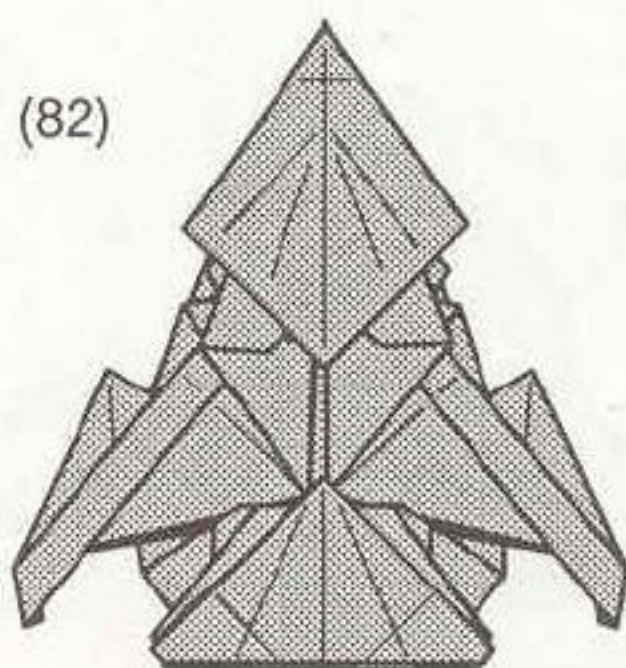
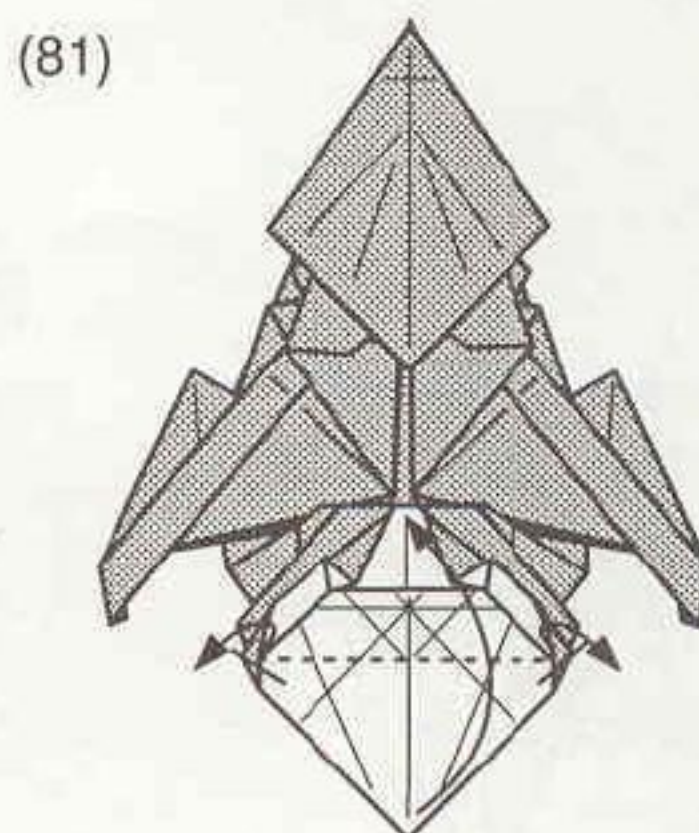




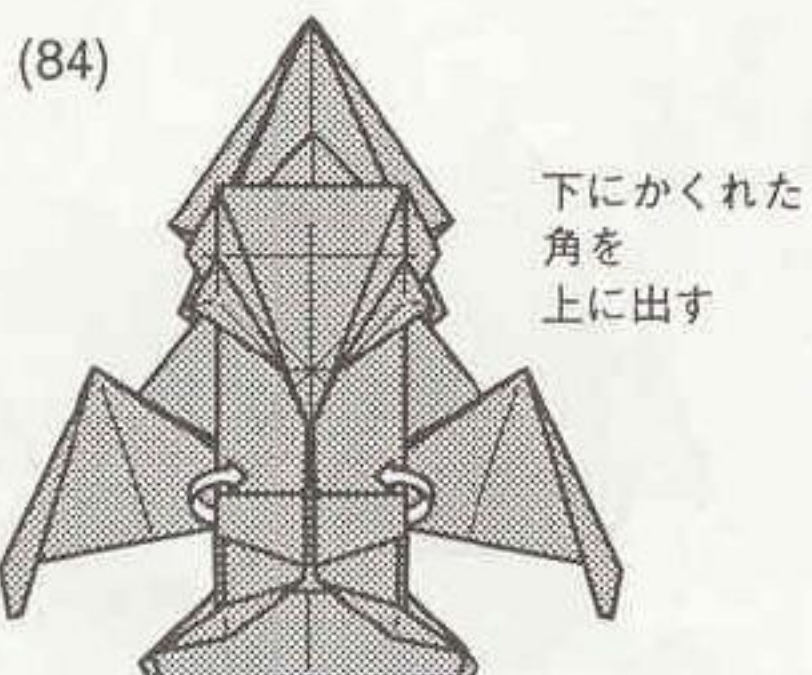
この線は
(72)で
付けたもの



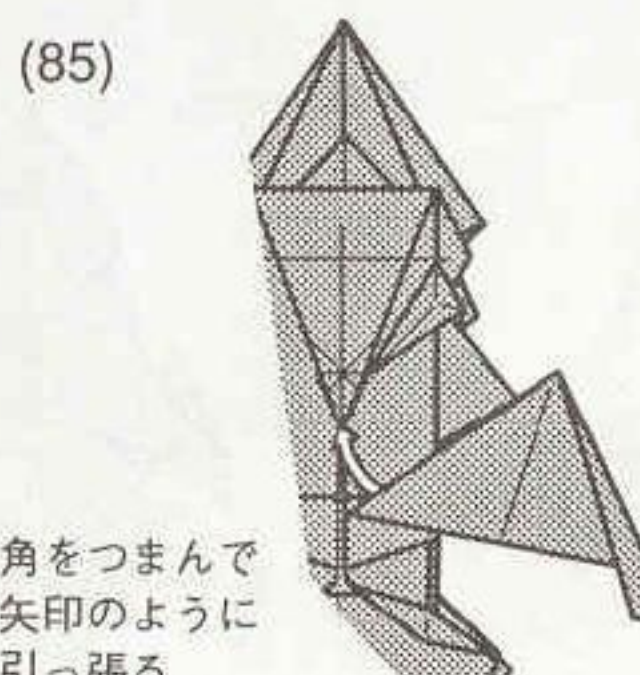
中わり折り



折りながら
角をつぶす

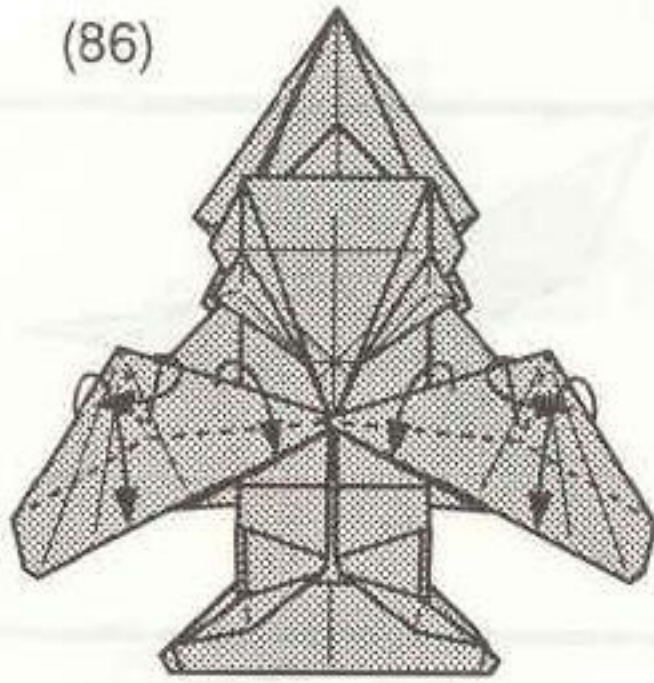


下にかくれた
角を
上に出す

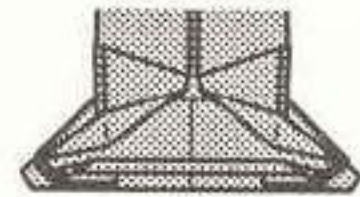
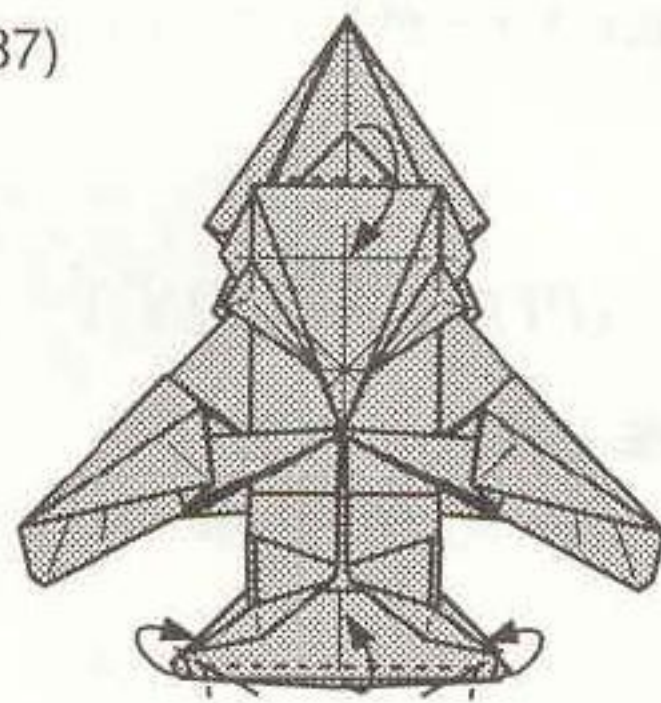


角をつまんで
矢印のように
引っ張る
(左右両方)

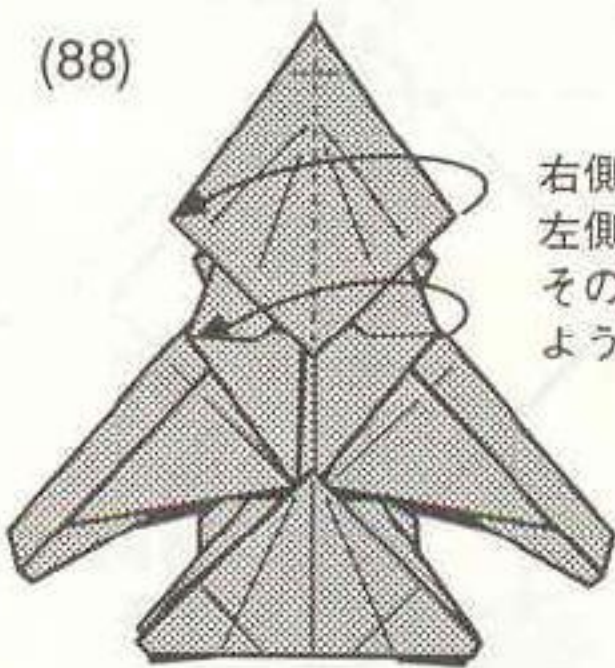
(86)



(87)

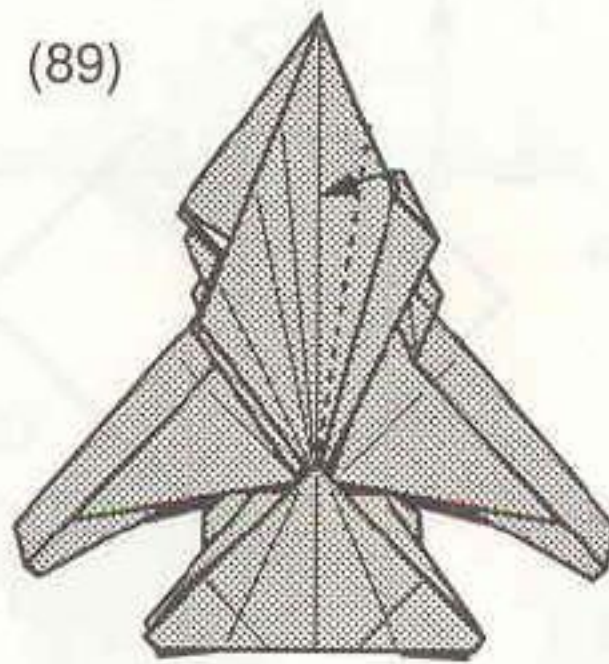


(88)

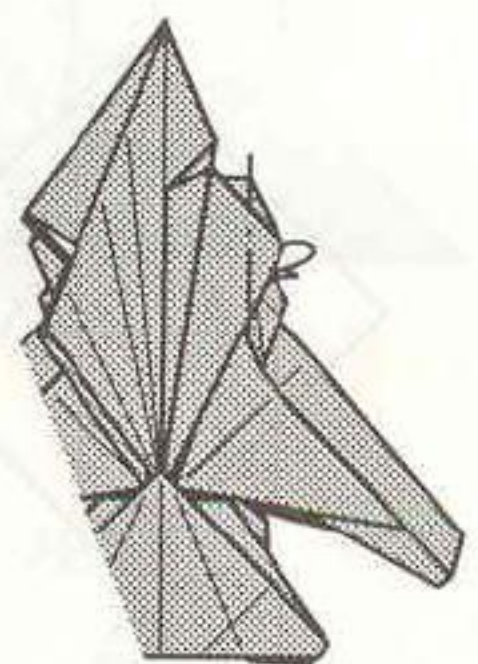


右側の2枚を
左側にまとめ
その下が見える
ようにする

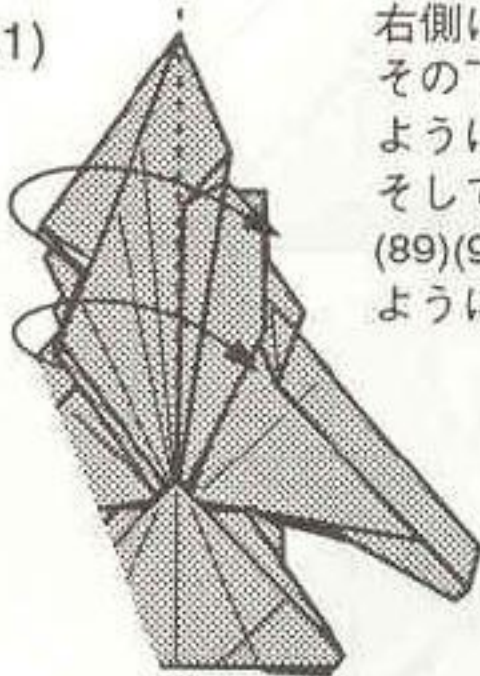
(89)



(90)



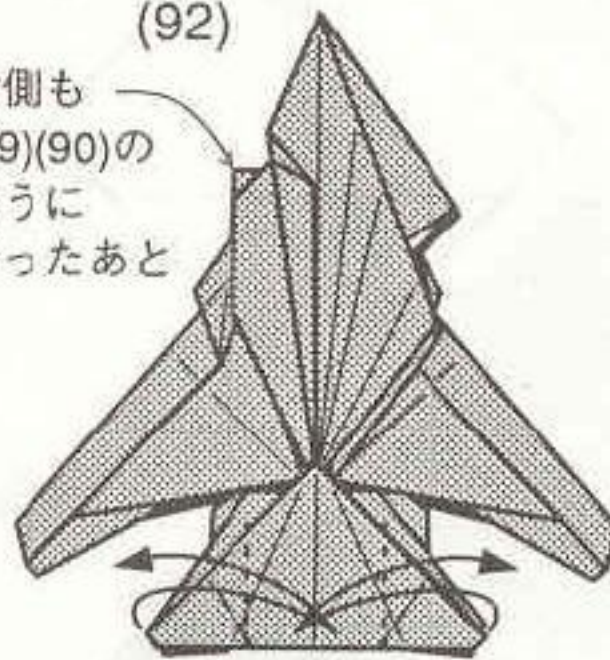
(91)



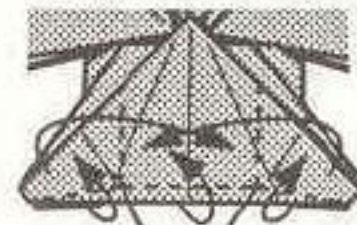
左側の4枚を
右側にまとめ
その下が見える
ようにする
そして左側も
(89)(90)の
ように折る

(92)

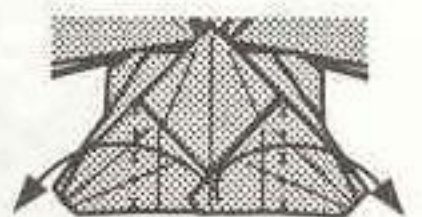
左側も
(89)(90)の
ように
行ったあと



(93)

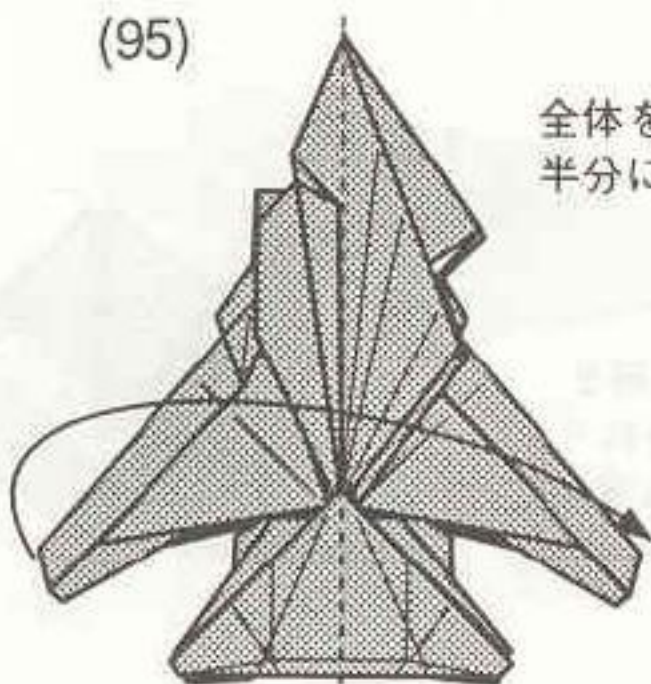


(94)



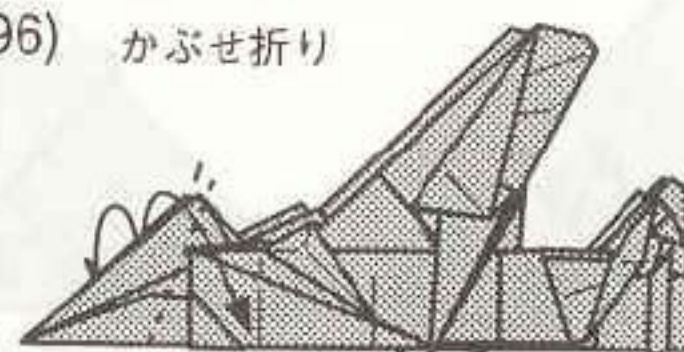
折りすじを
残して(93)の
状態まで開く

(95)



全体を
半分に折る

(96) かぶせ折り



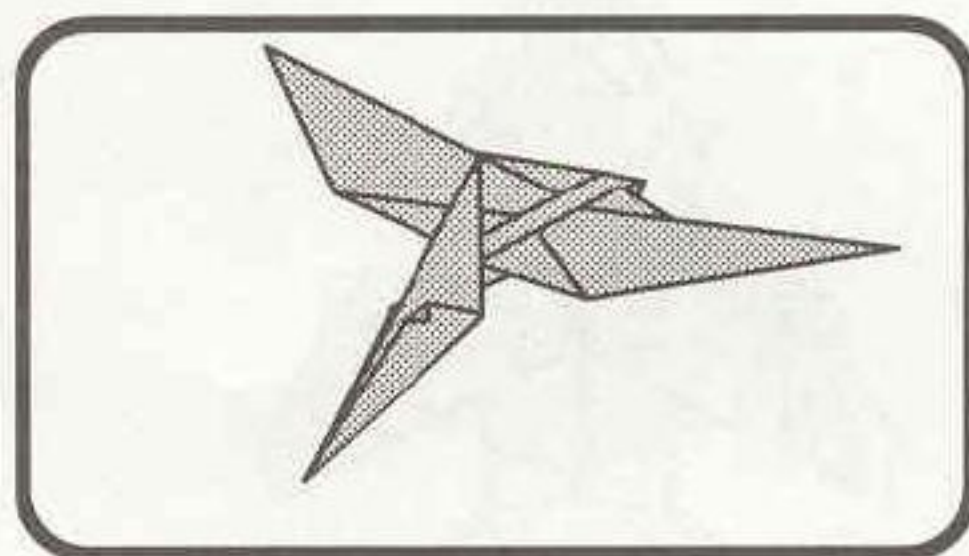
いよいよ次号にて完結

永き放浪の果てに、あの折紙ビギナーがクラスチェンジして帰ってきた！

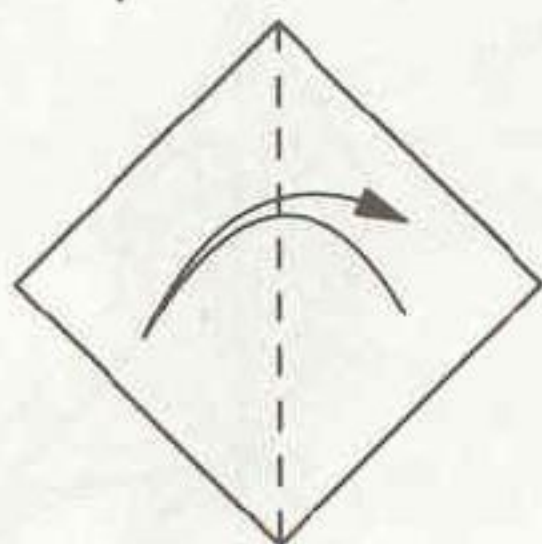
折り図ビギナー奮戦記

プテラノドン (PTERANODON)

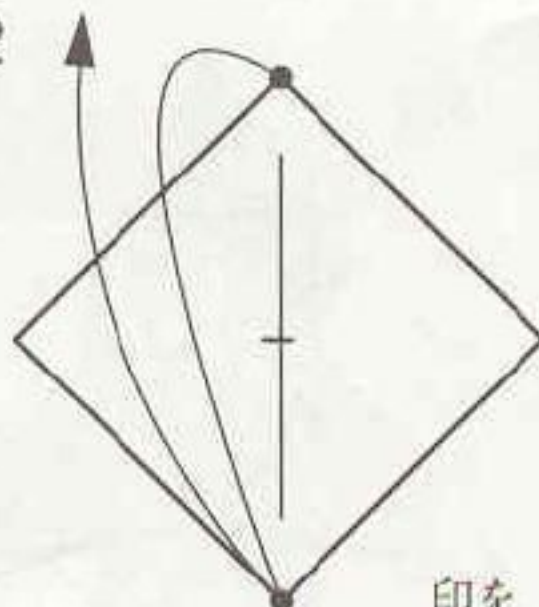
創作・作図：木村哲夫
by Tetsuo Kimura



1

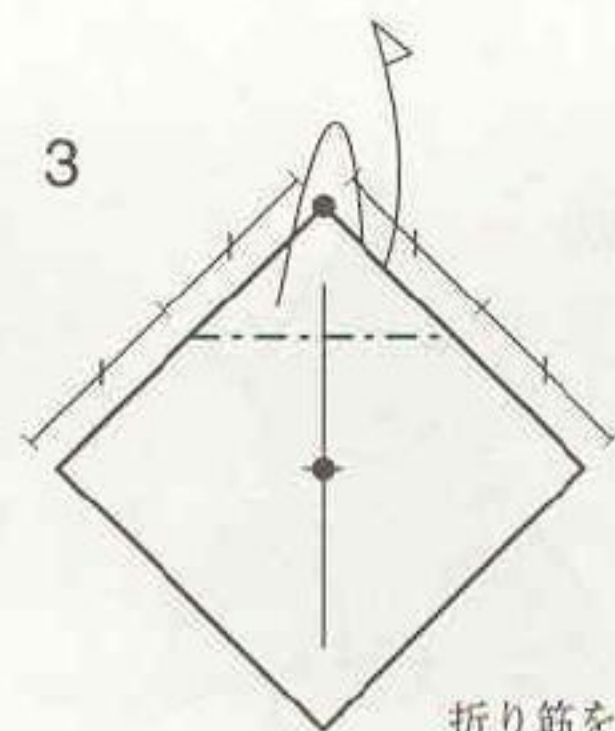


2



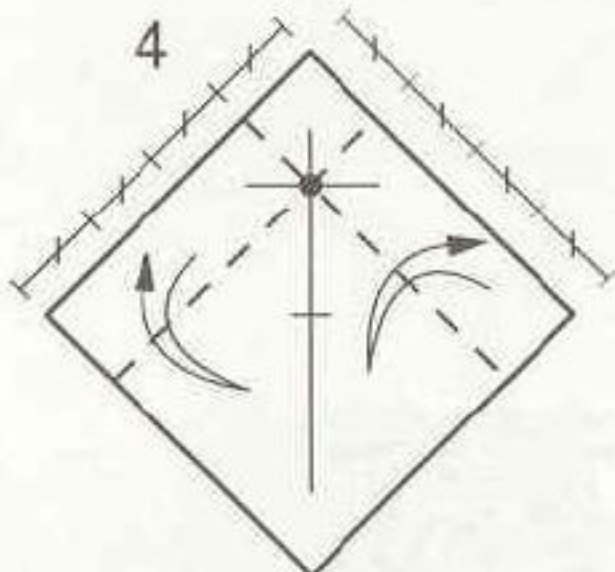
印を
付けるだけ

3

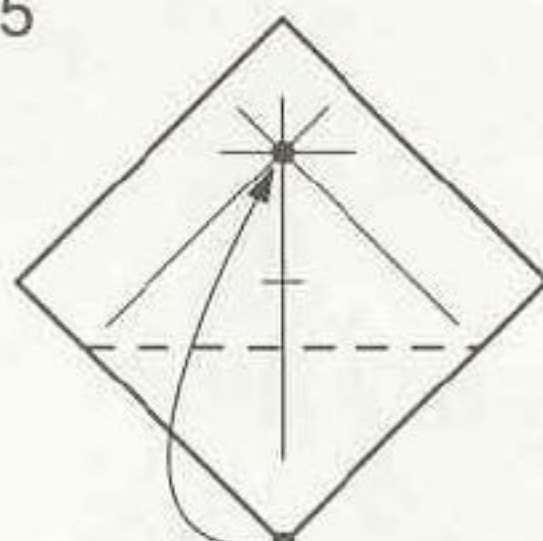


折り筋を
付ける

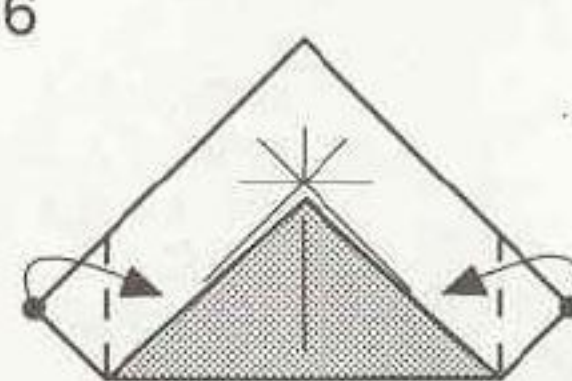
4



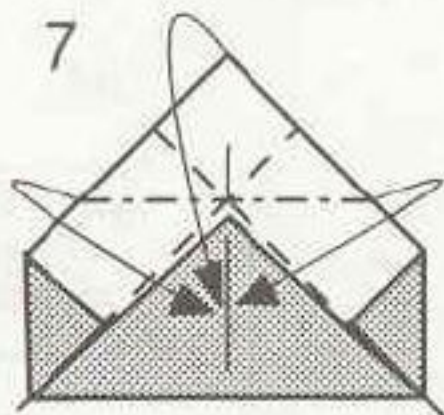
5



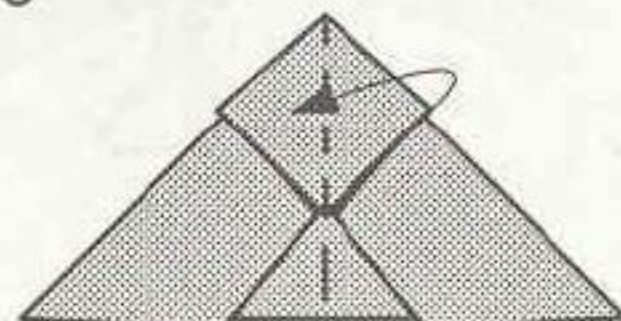
6



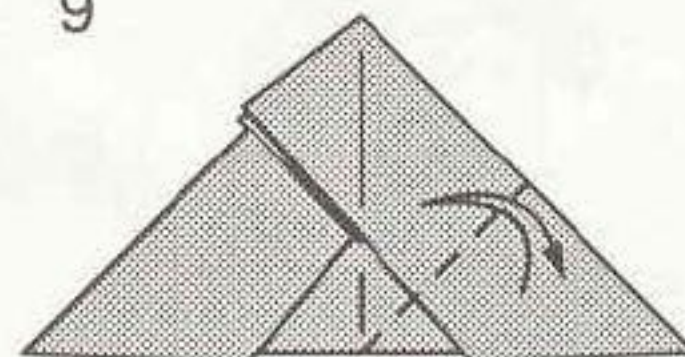
7



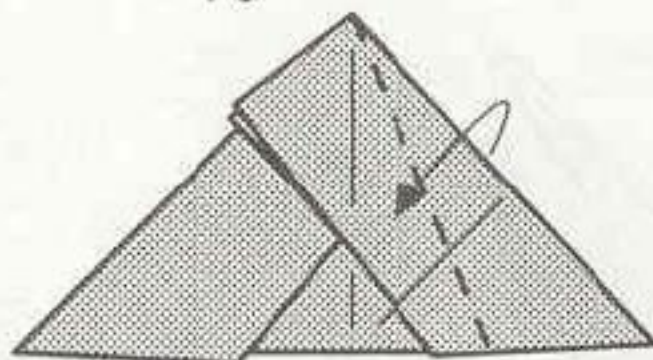
8



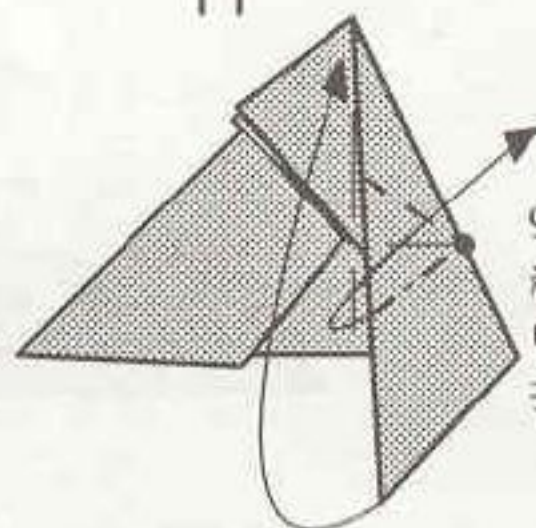
9



10

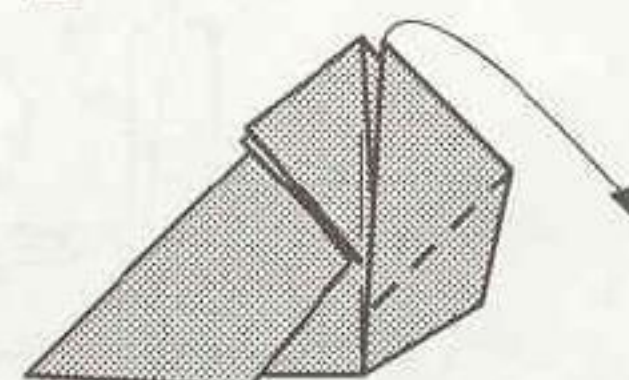


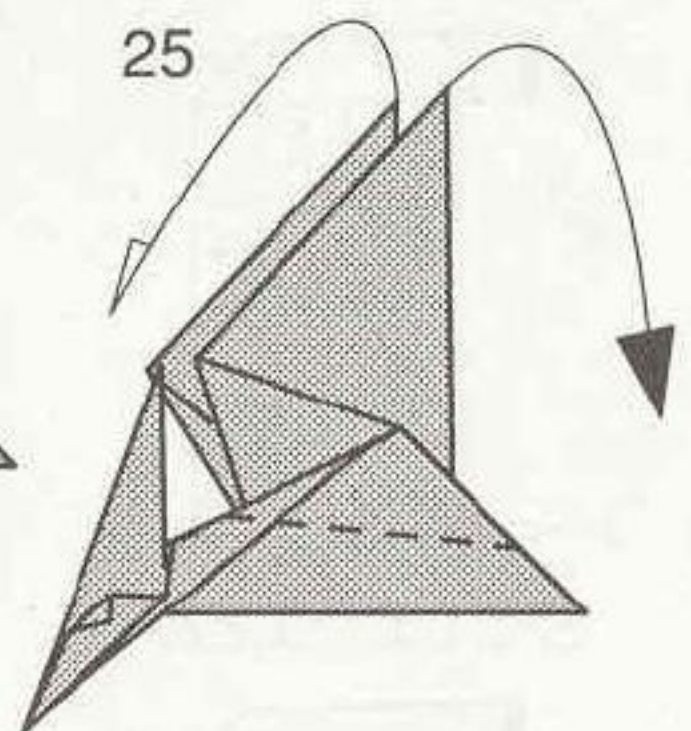
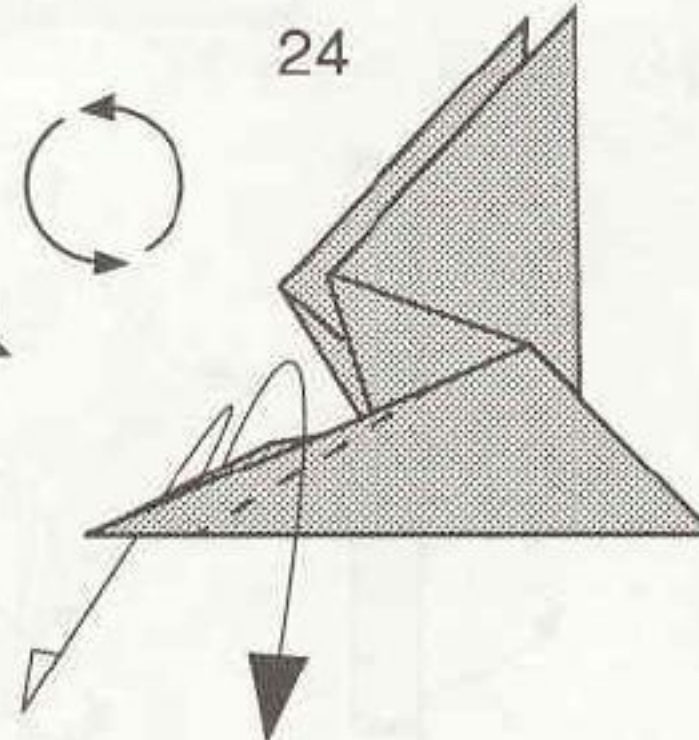
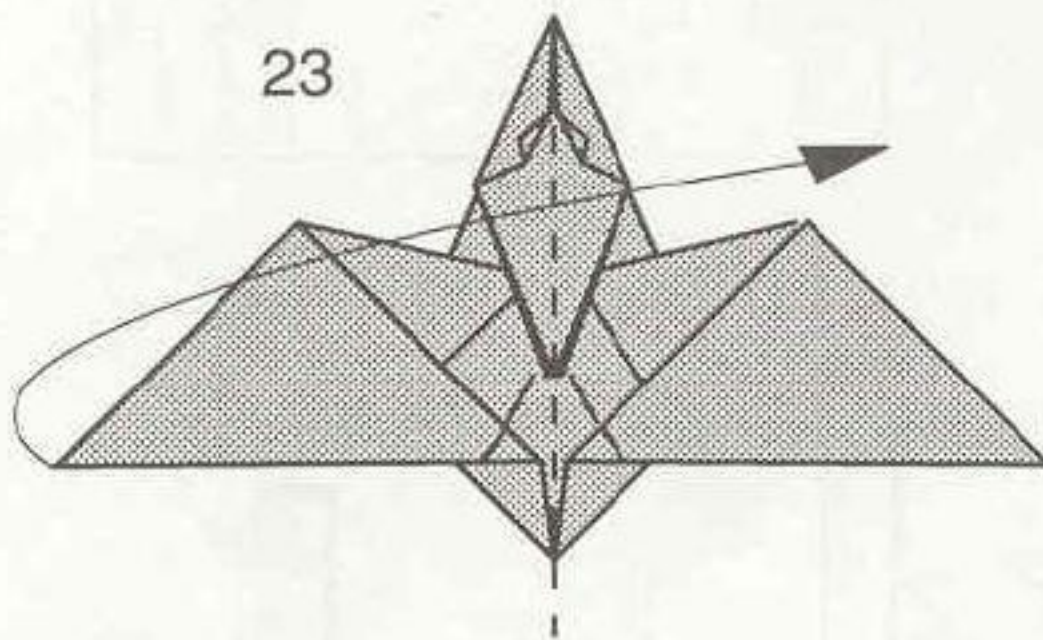
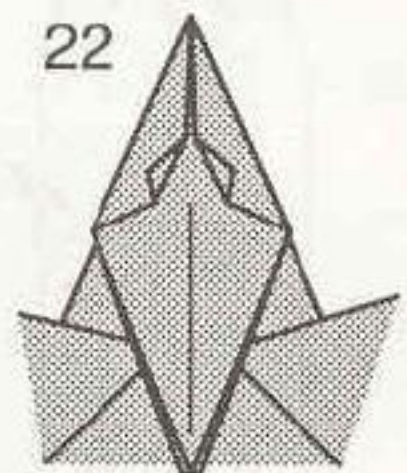
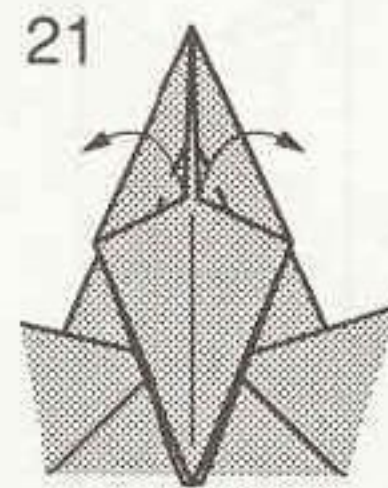
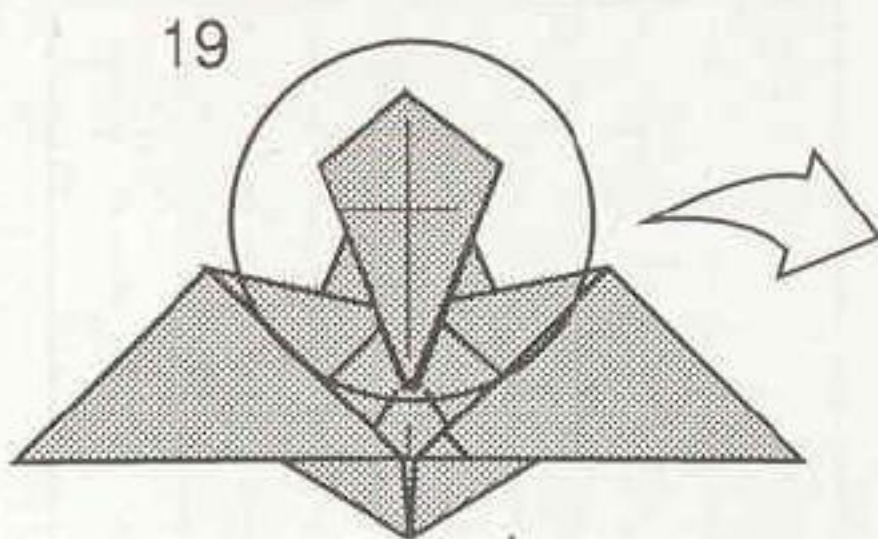
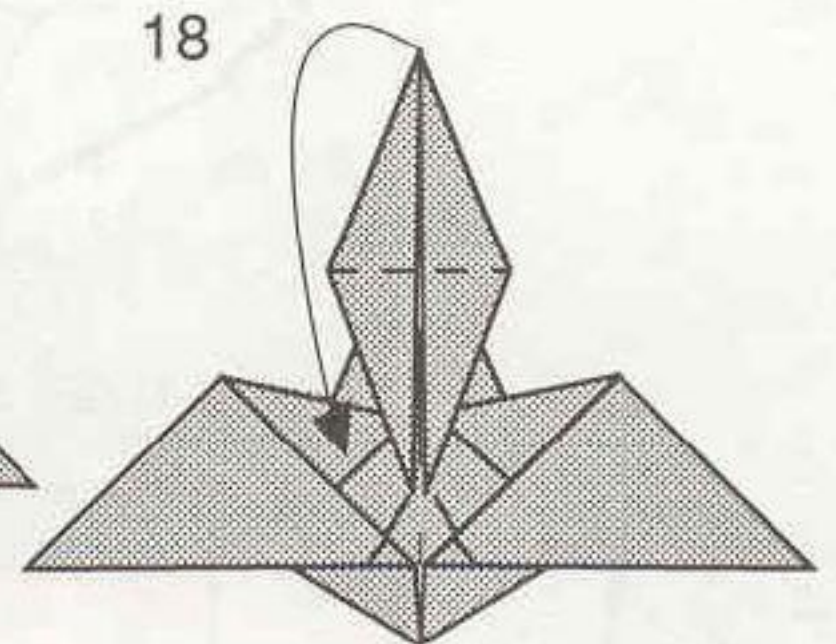
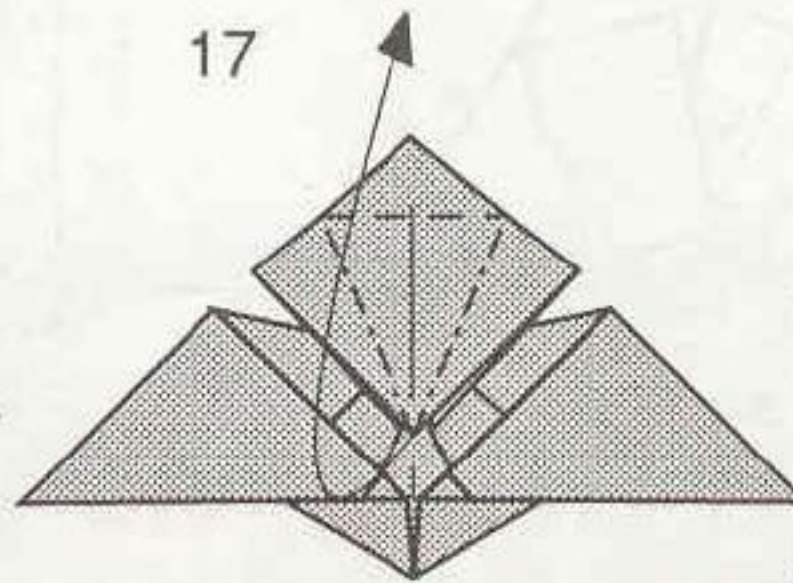
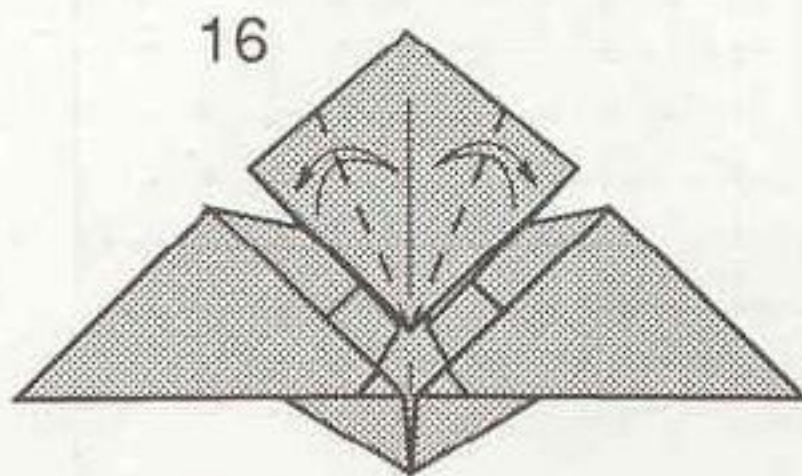
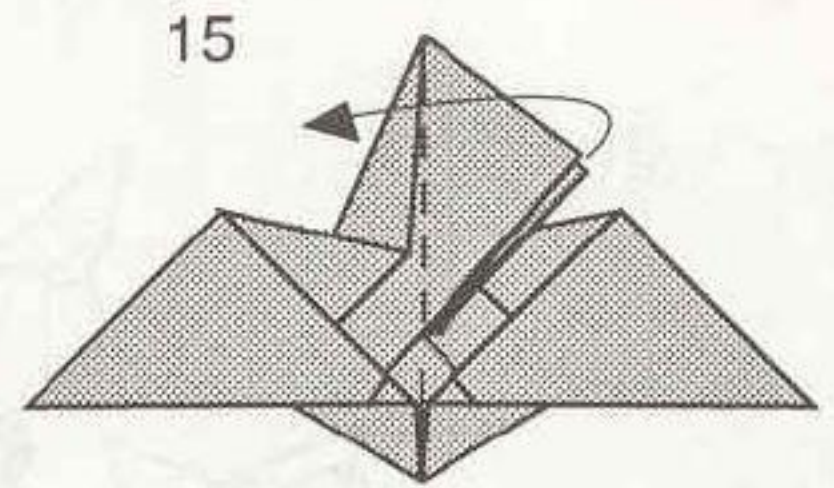
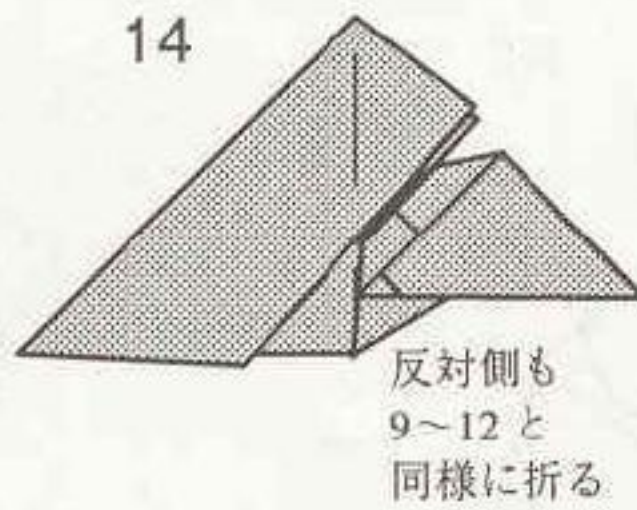
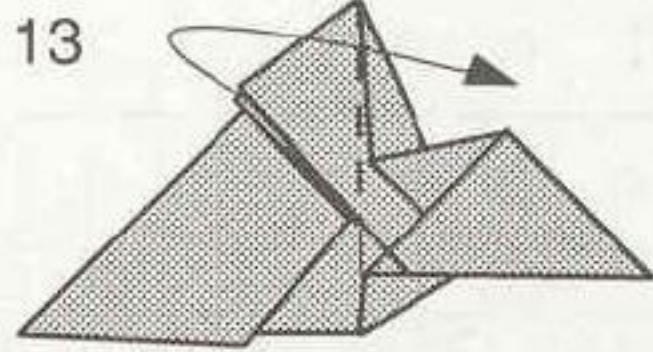
11



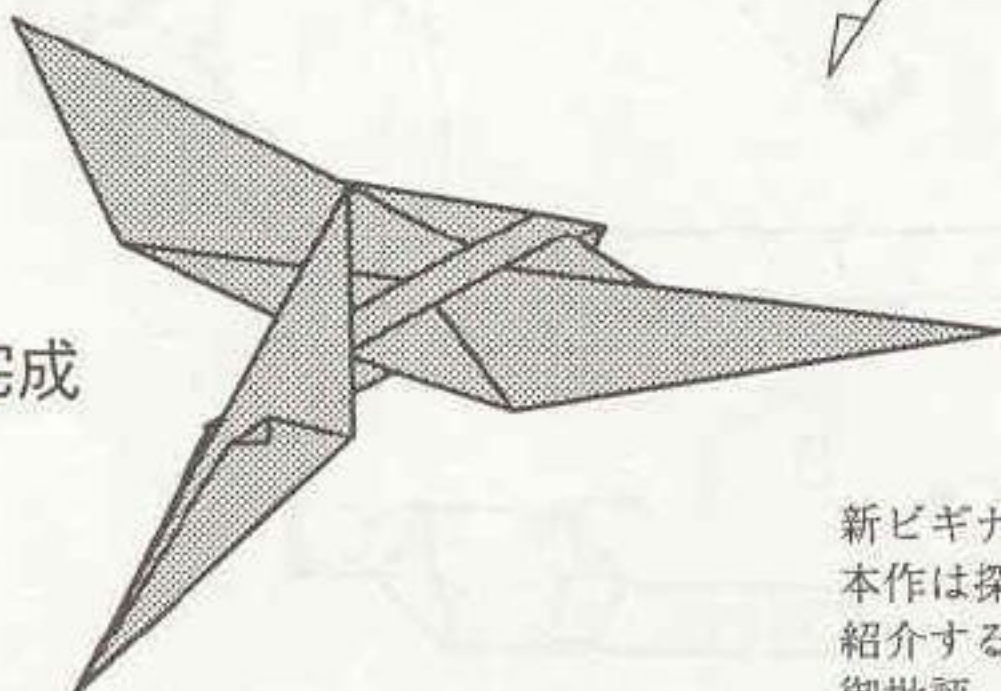
9で付けた折り筋を
線に合わせて谷折りし
中を広げながら頂点に
折り上げる

12





26 完成



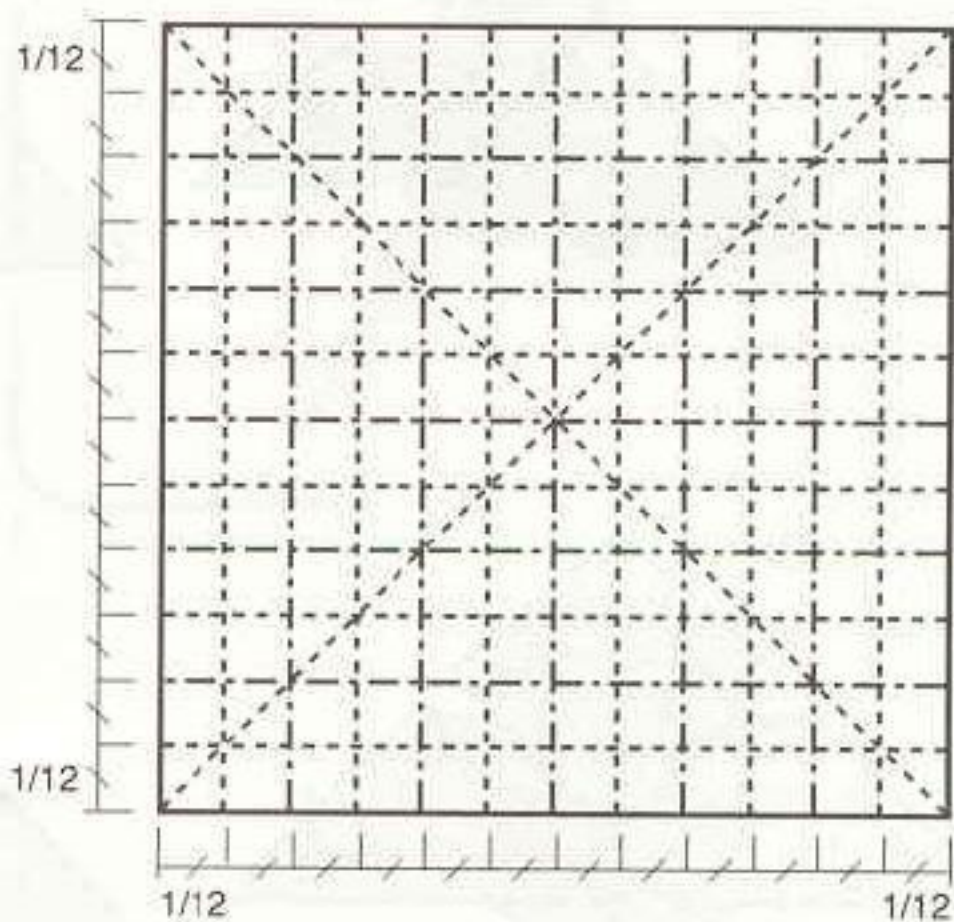
新ビギナーシリーズをお届けします。
本作は探偵団コンベンションで紹介したものです。今回折り図を
紹介する機会に恵まれたのですが、作図力の不足を痛感しました。
御批評、御批判をお待ちしています。
(1996/11/04)

熊と鮭

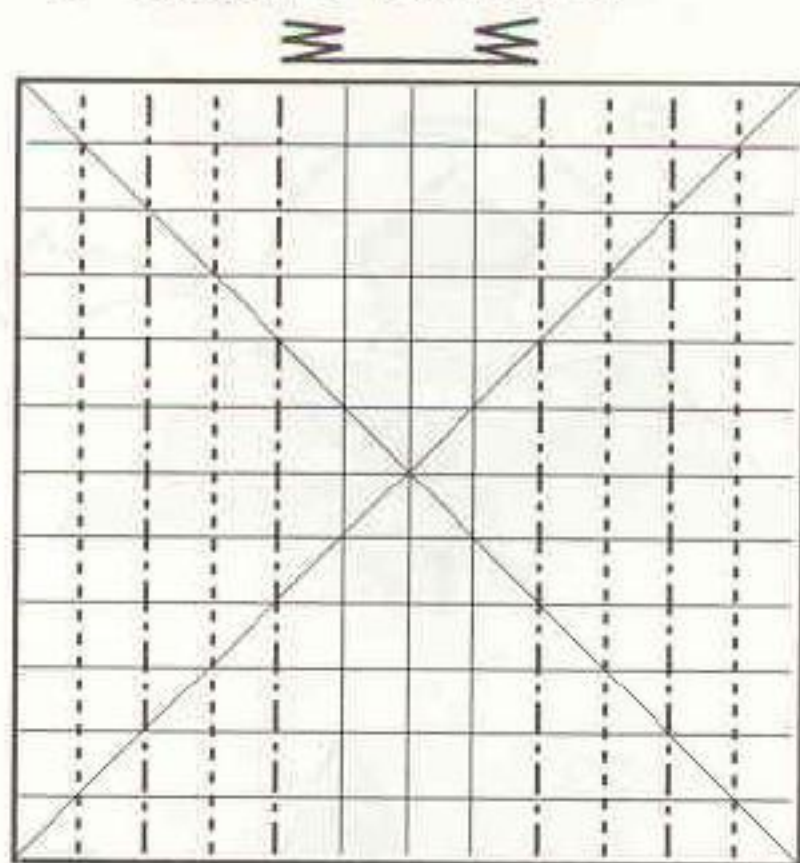
創作・作図
山田勝久



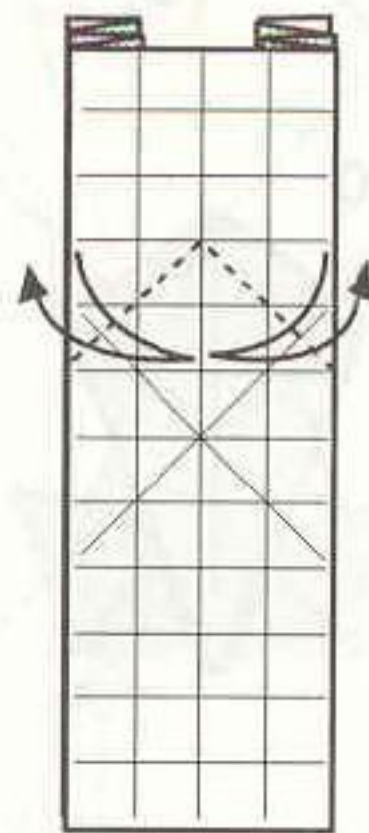
1 折り筋を付ける



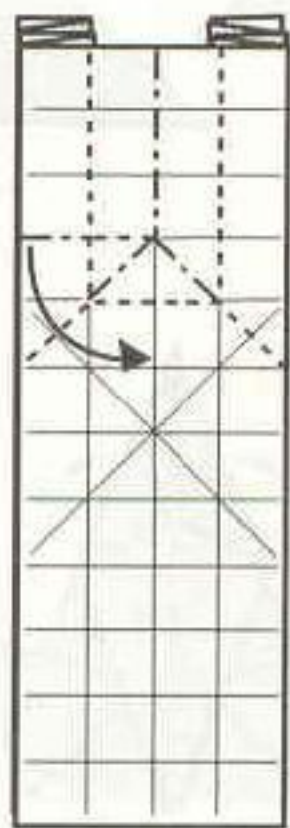
2 蛇腹折りでまとめる



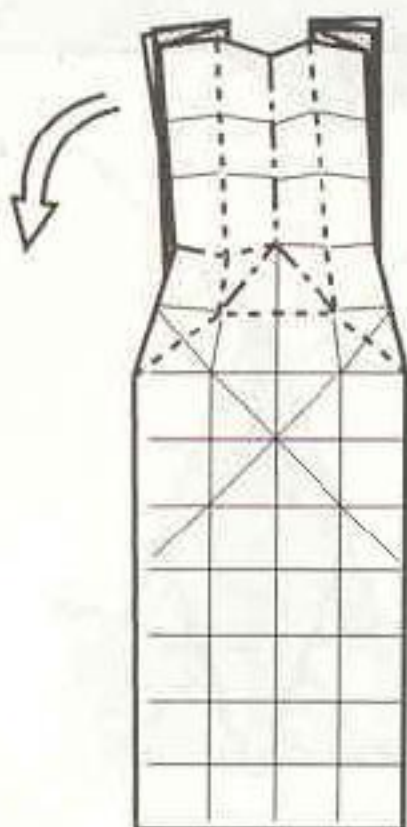
3 折り筋を付ける



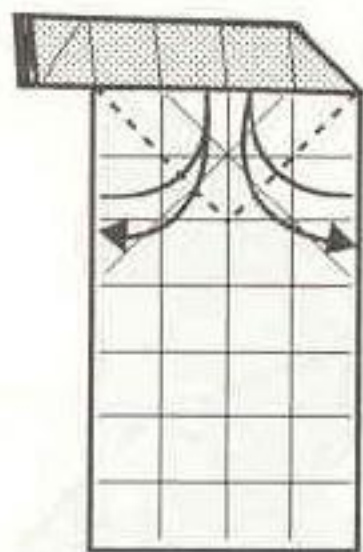
4 折り筋でまとめる



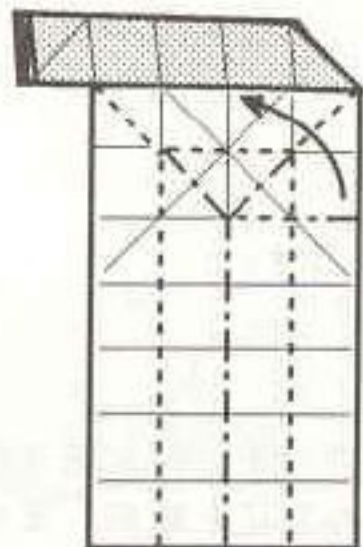
途中図



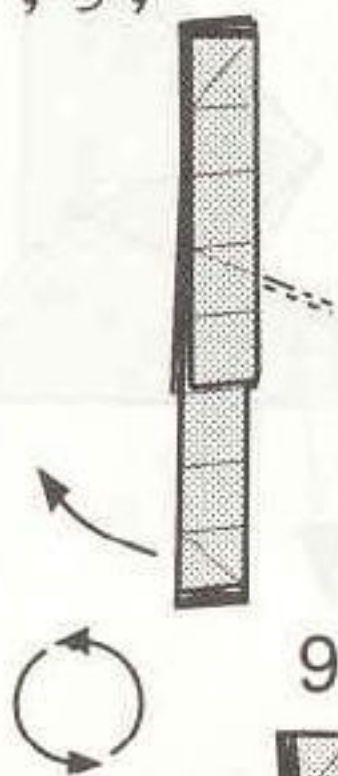
5 折り筋を付ける



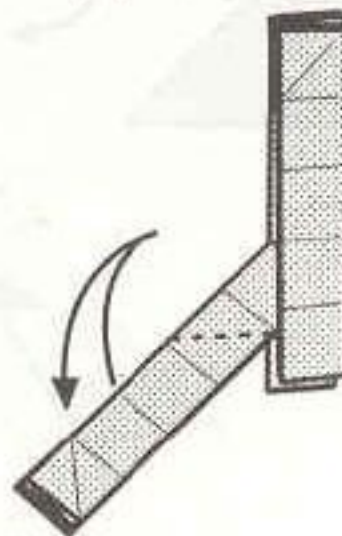
6 折り筋でまとめる



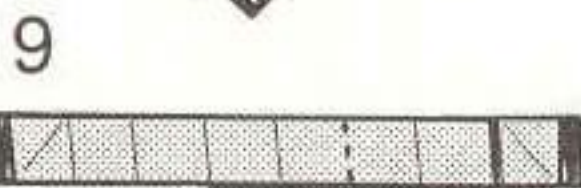
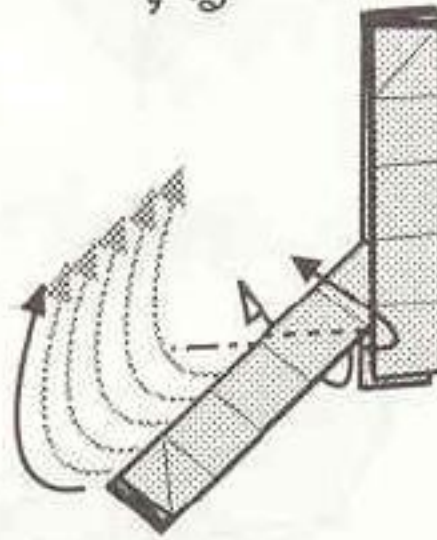
10 45° 引き上げてずらす



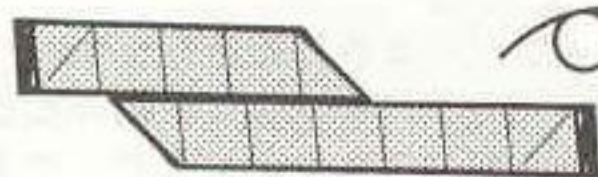
11 折り筋を付ける



12 6のかぶせ折りをする



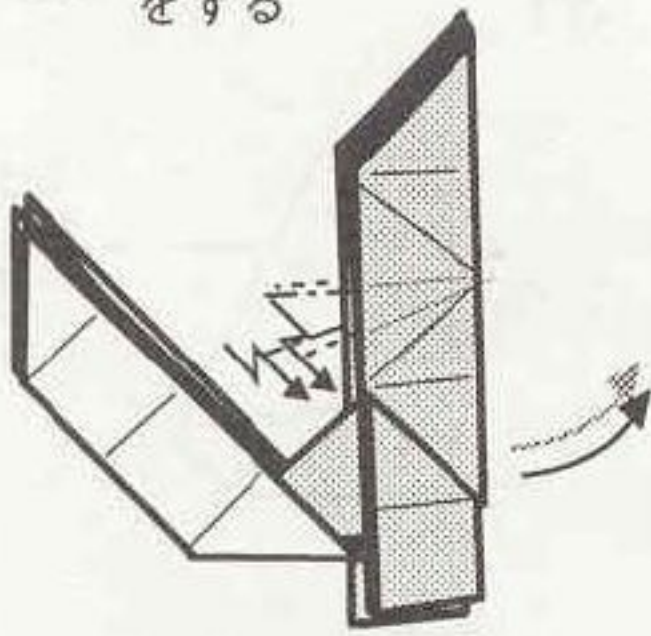
7



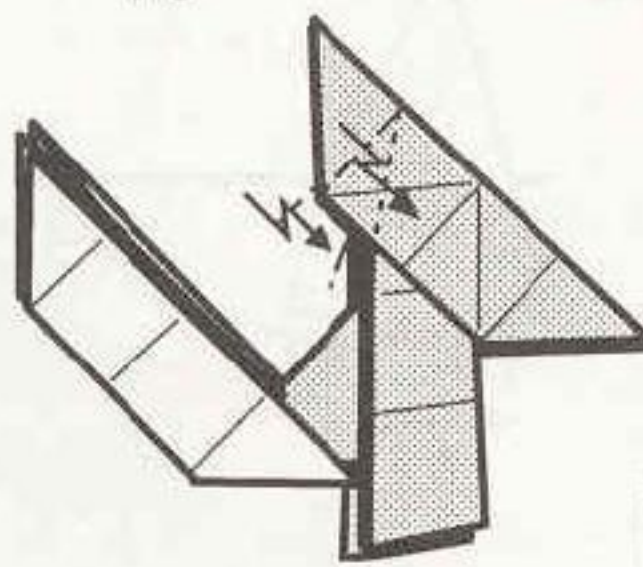
8



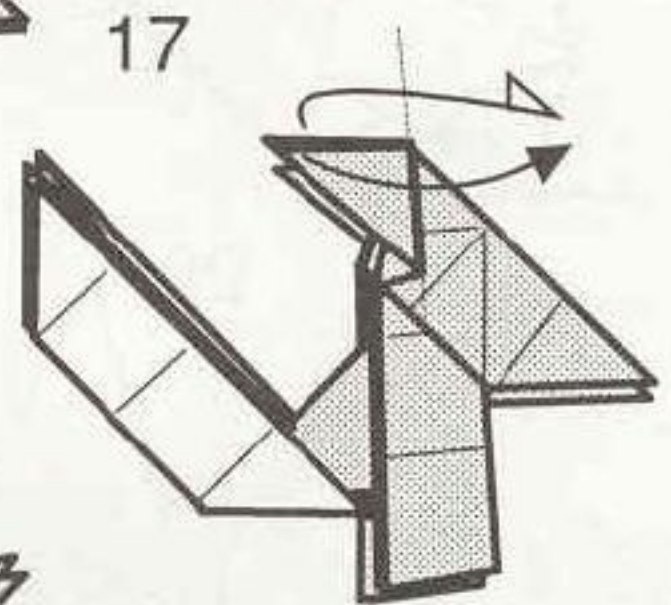
15 かぶせるように段折りをする



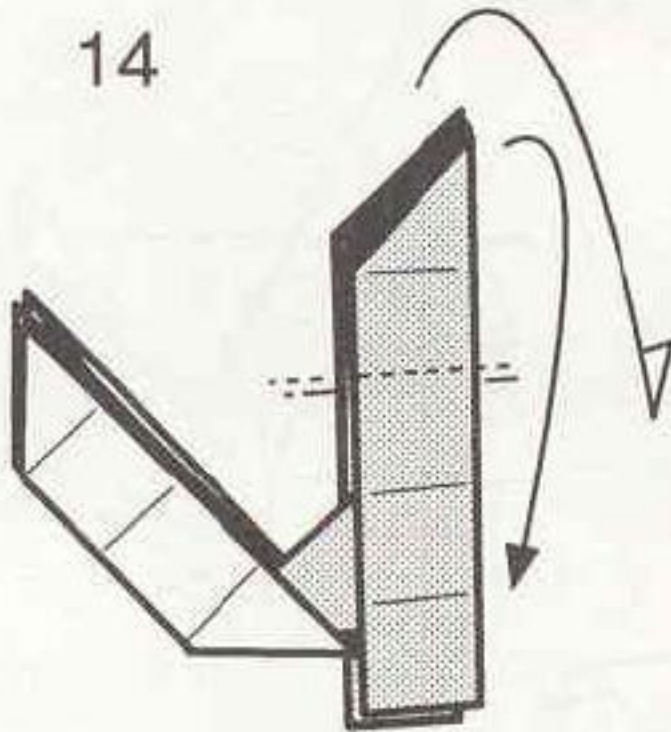
16



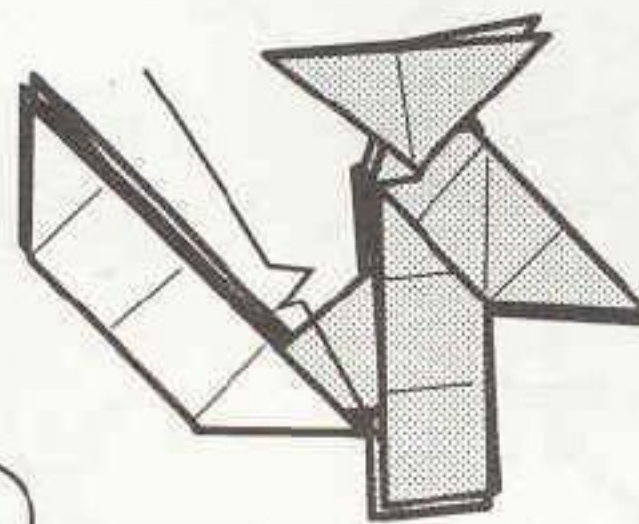
17



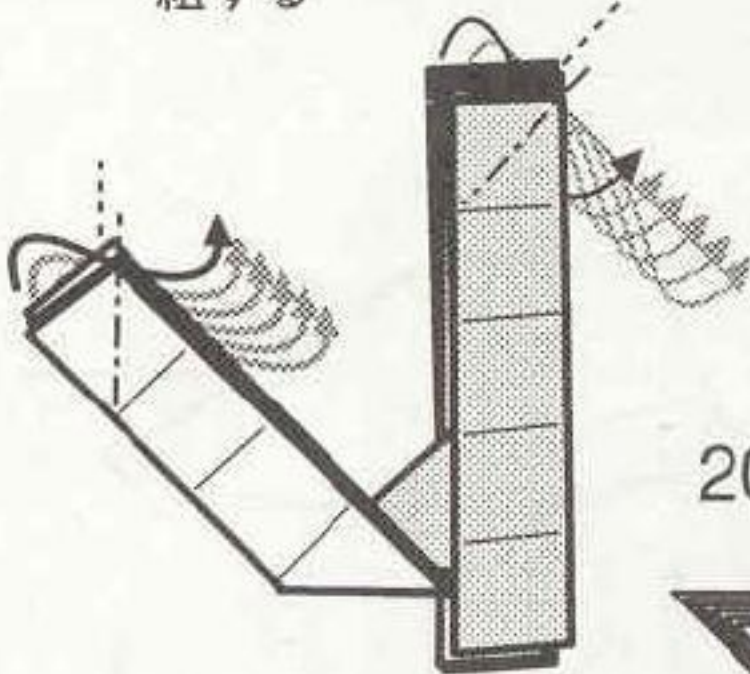
14



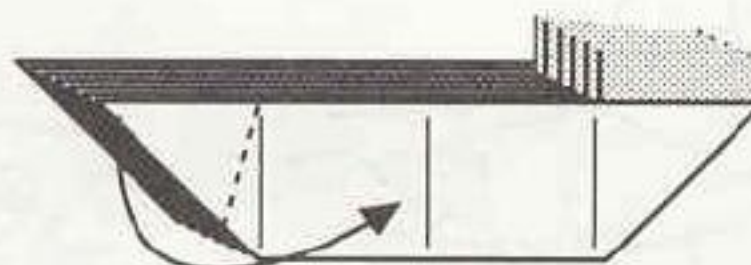
18



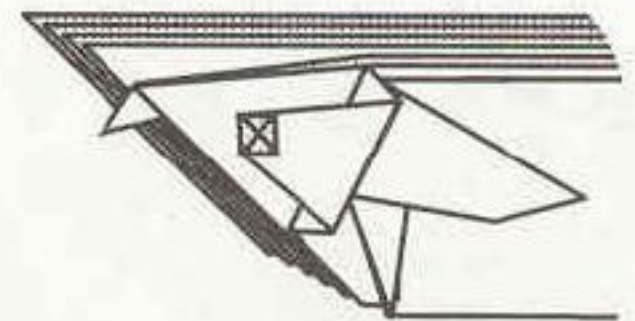
13 6の中割り折りを2組する



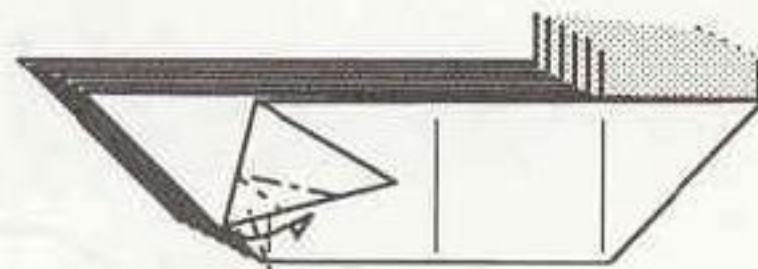
19



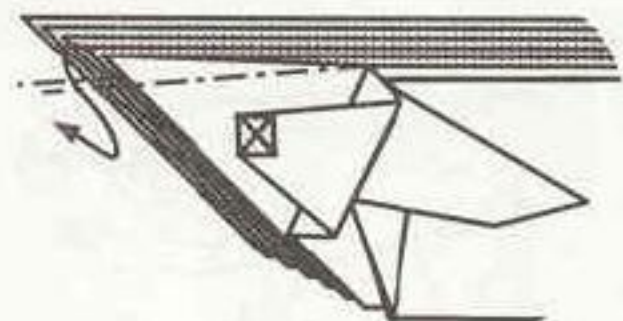
26



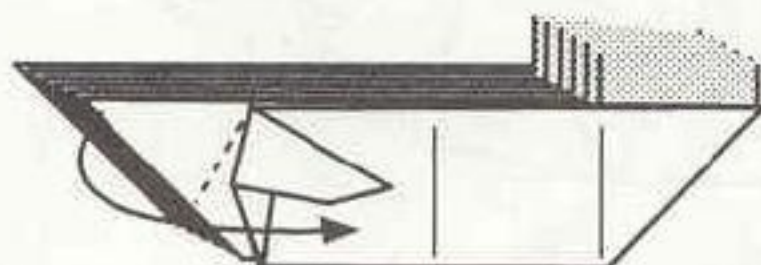
20



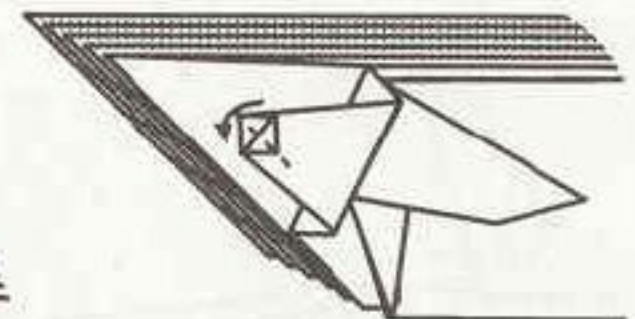
25



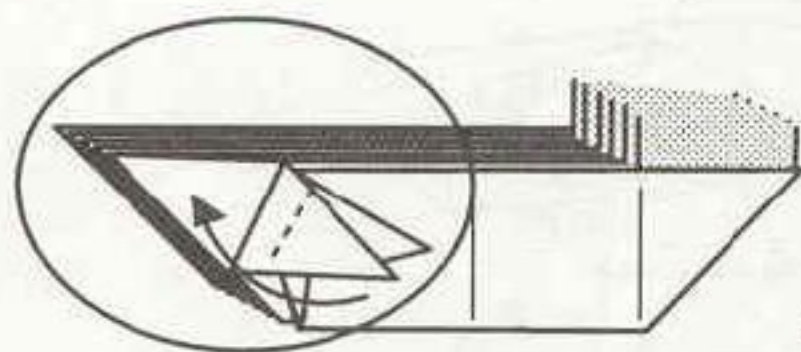
21



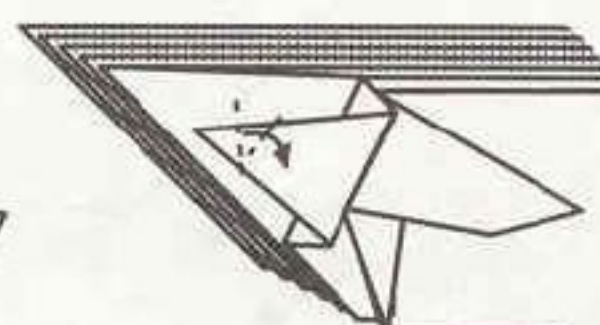
24



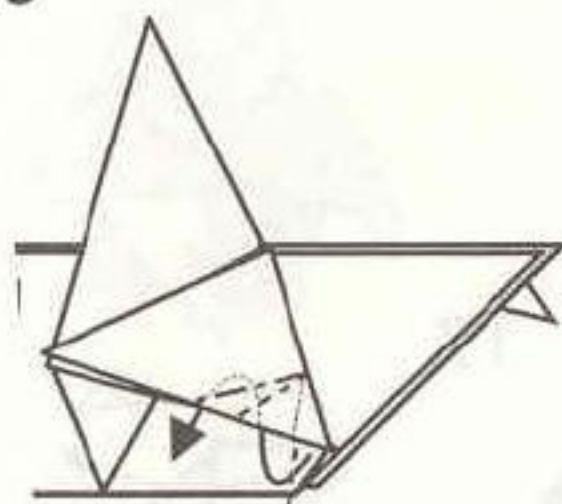
22



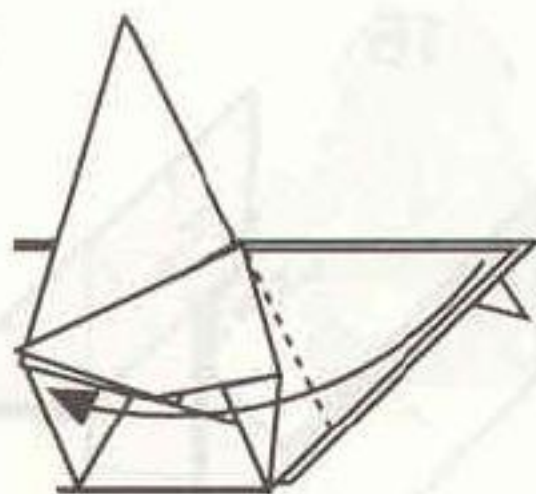
23 正方基本形のように折る



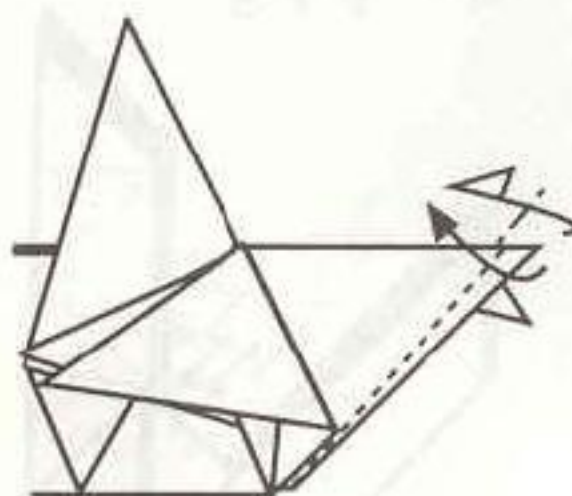
29



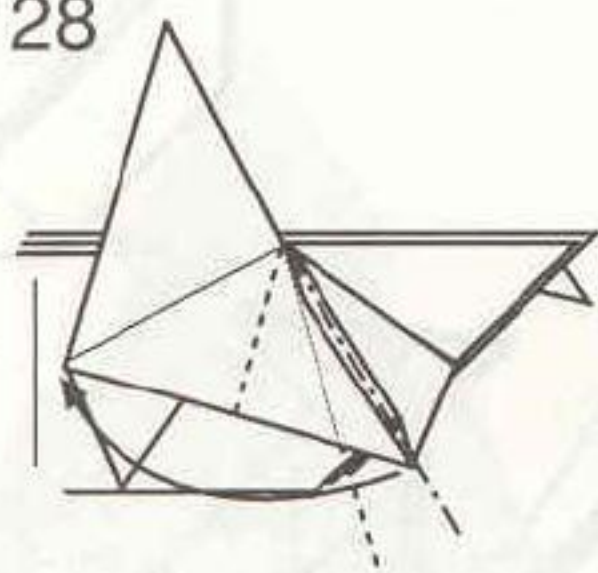
30



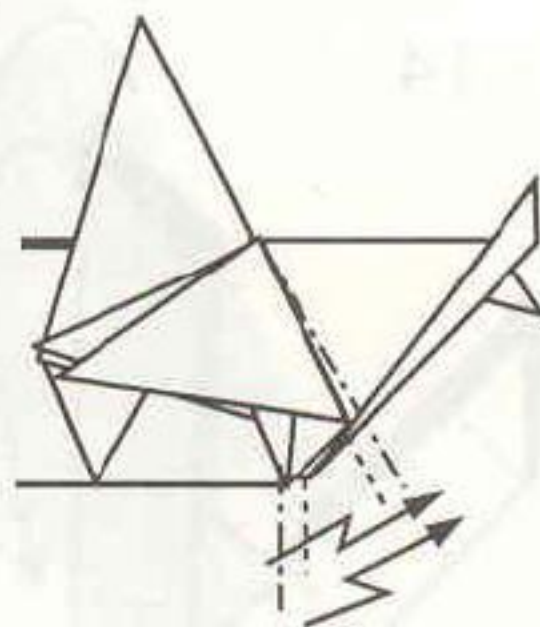
31



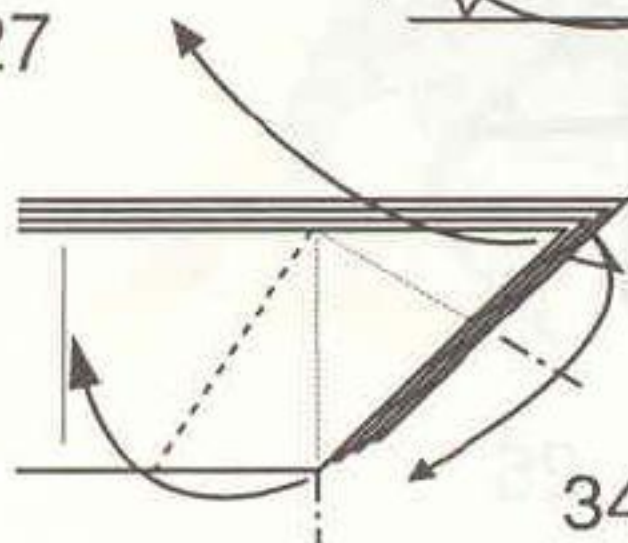
28



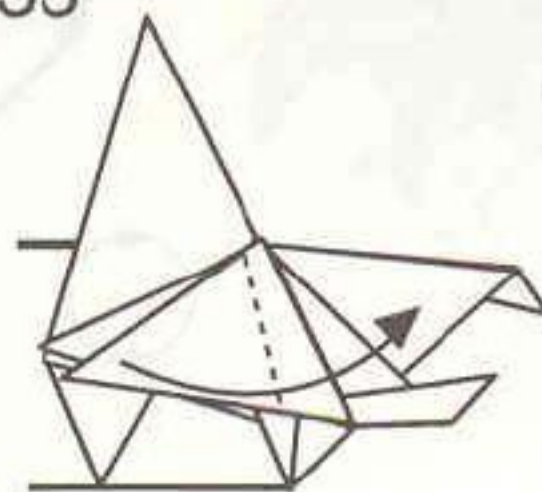
32



27



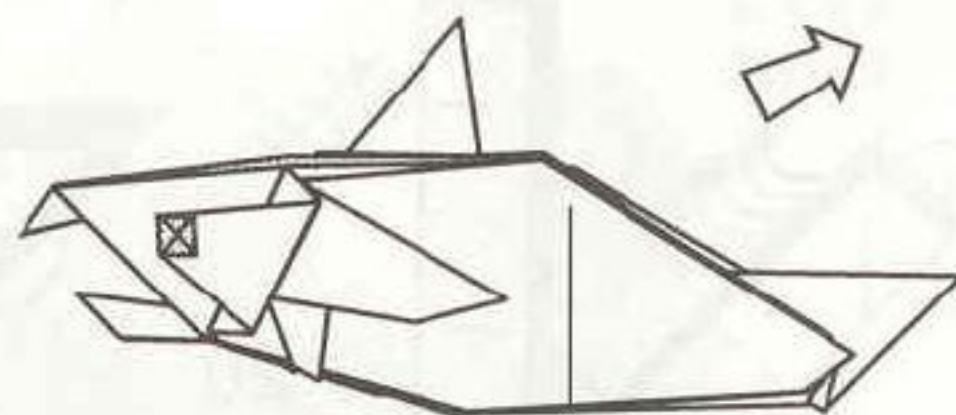
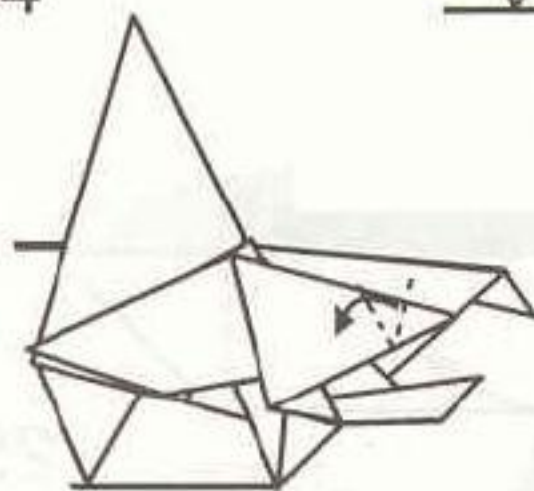
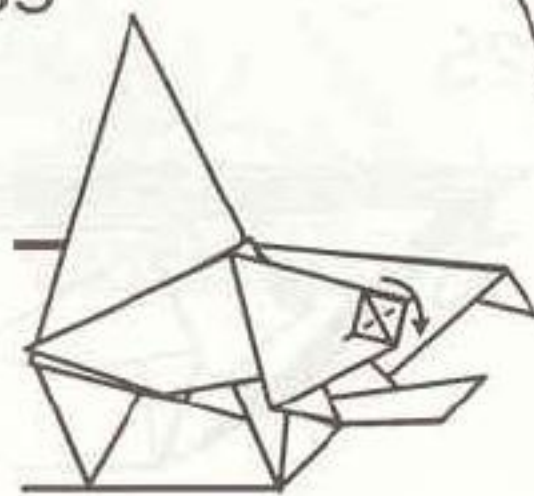
33



34

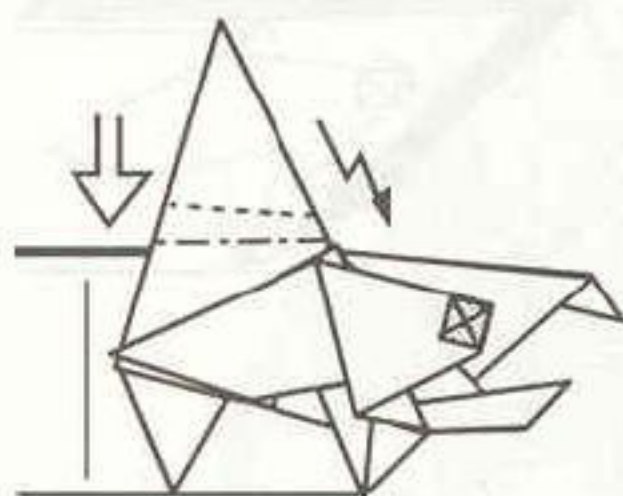


35

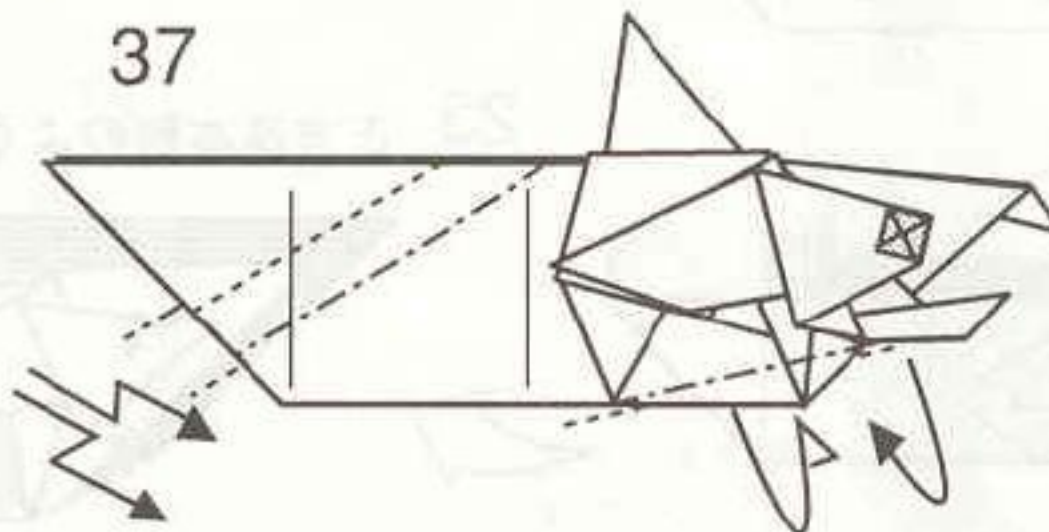


36

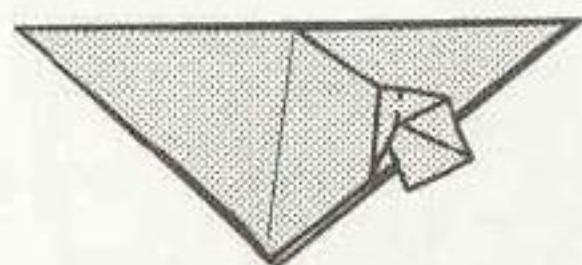
背中の間に入れる



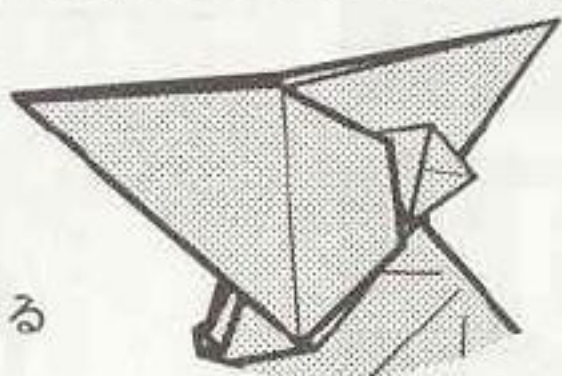
37



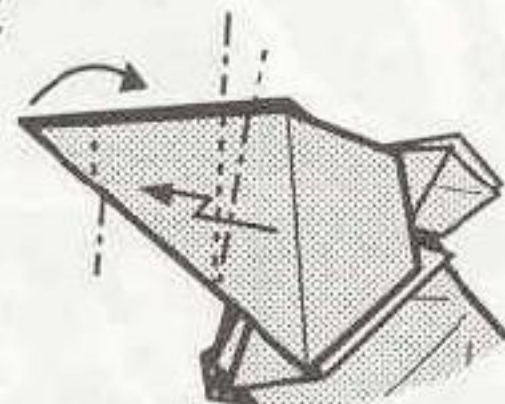
途中図



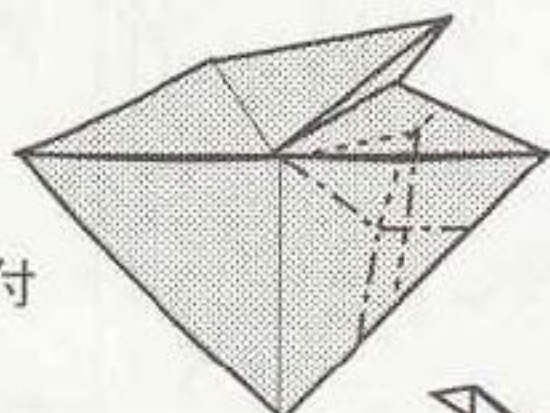
41 裏側も同じように折る



42



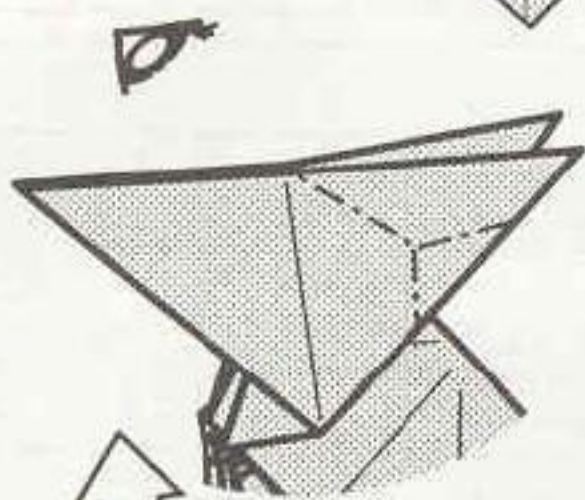
40 折り筋でまとめる



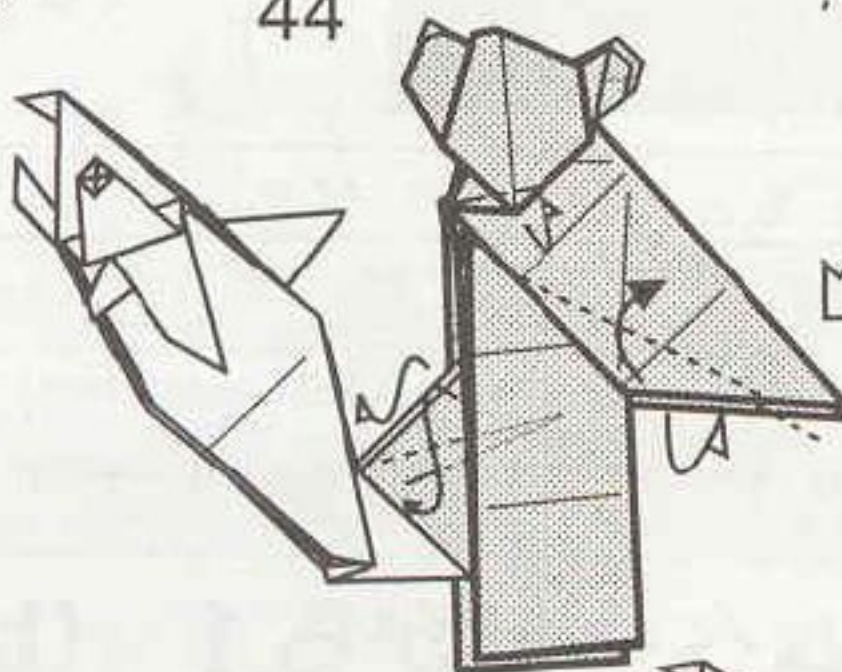
43



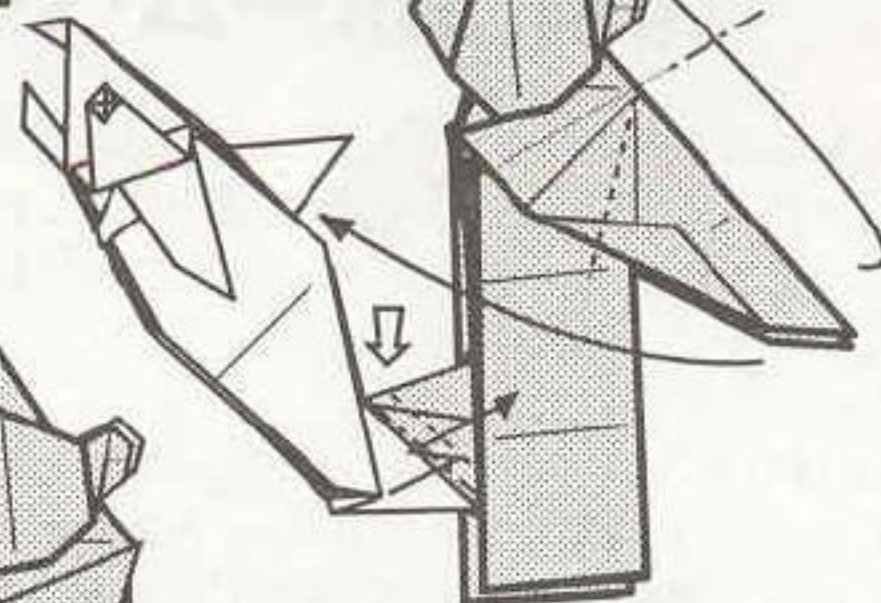
39 折り筋を付ける



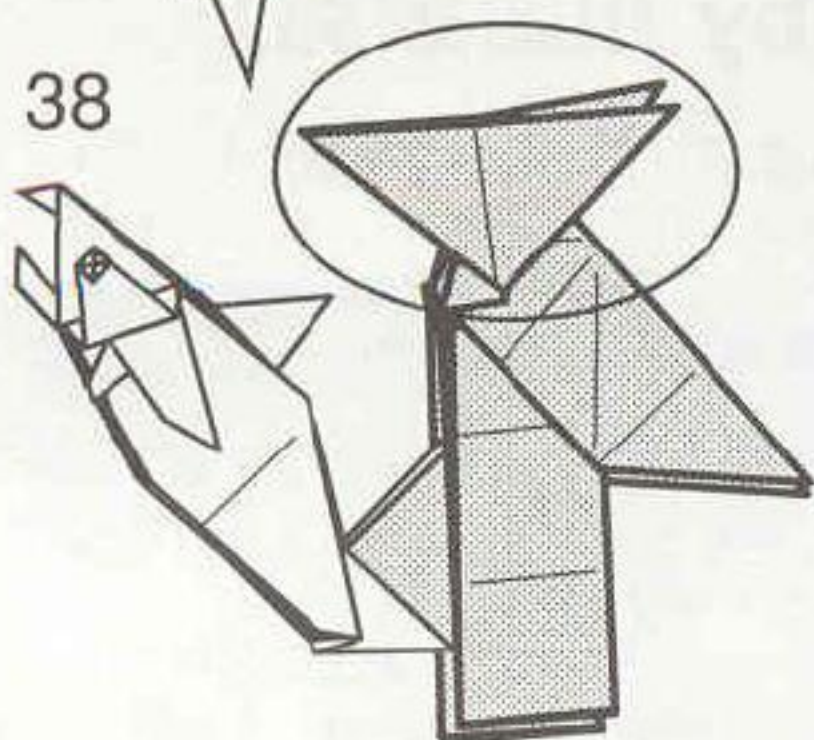
44



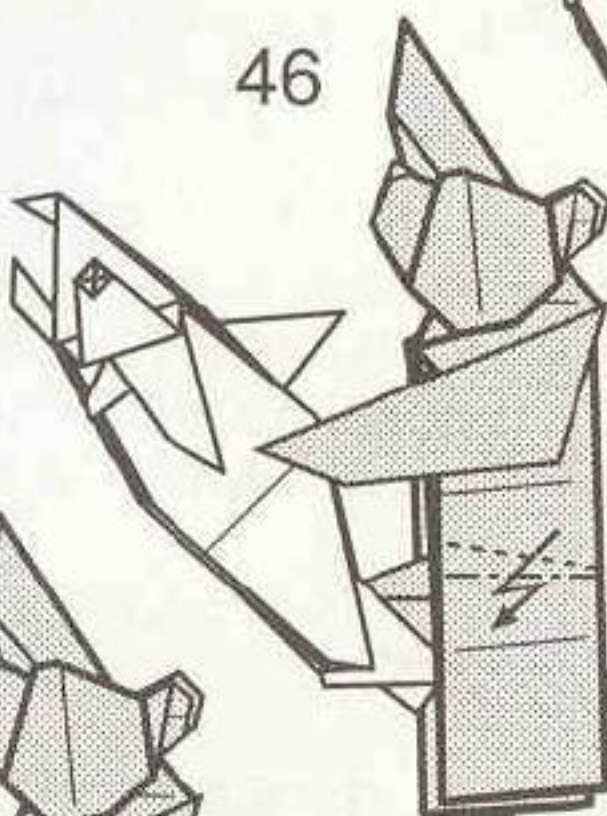
45



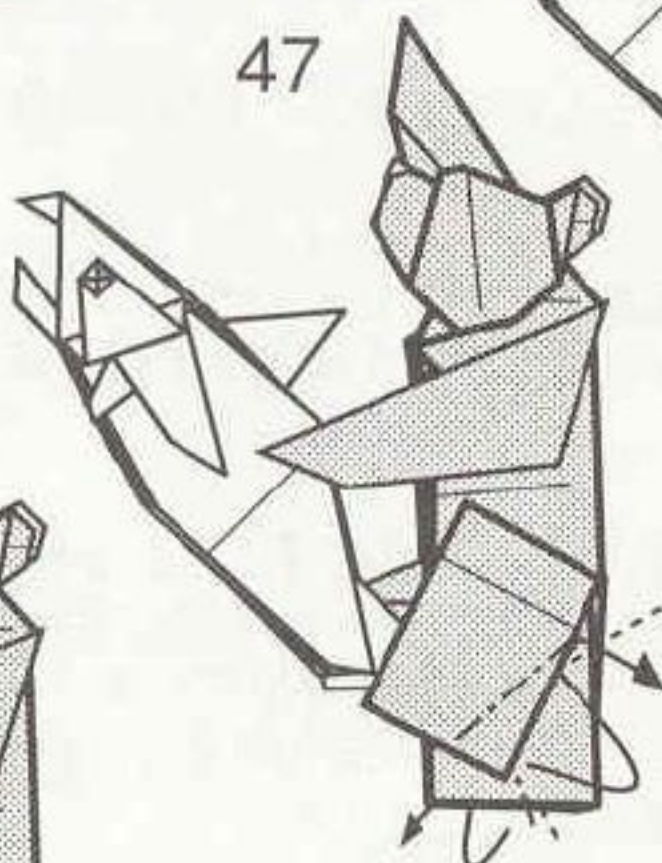
38



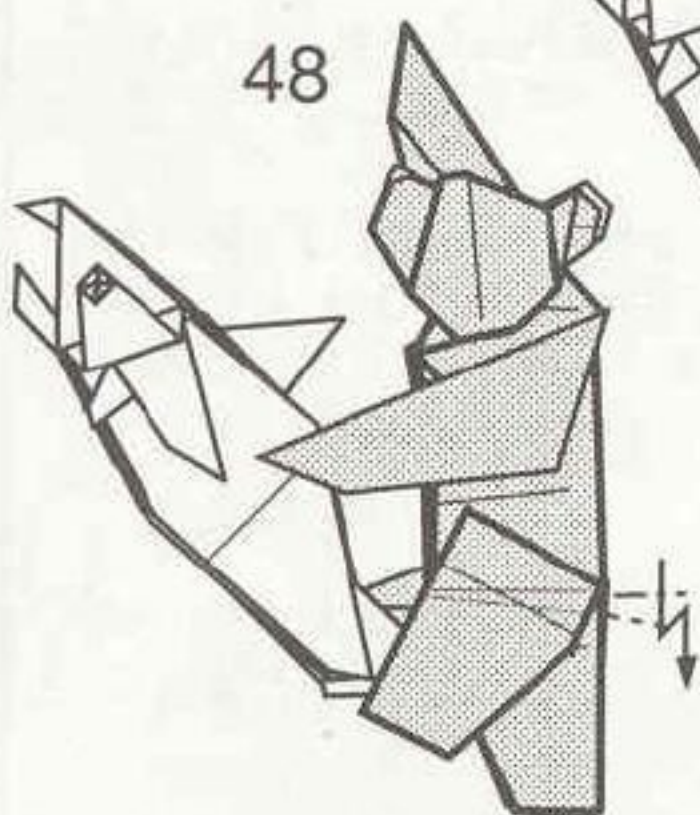
46



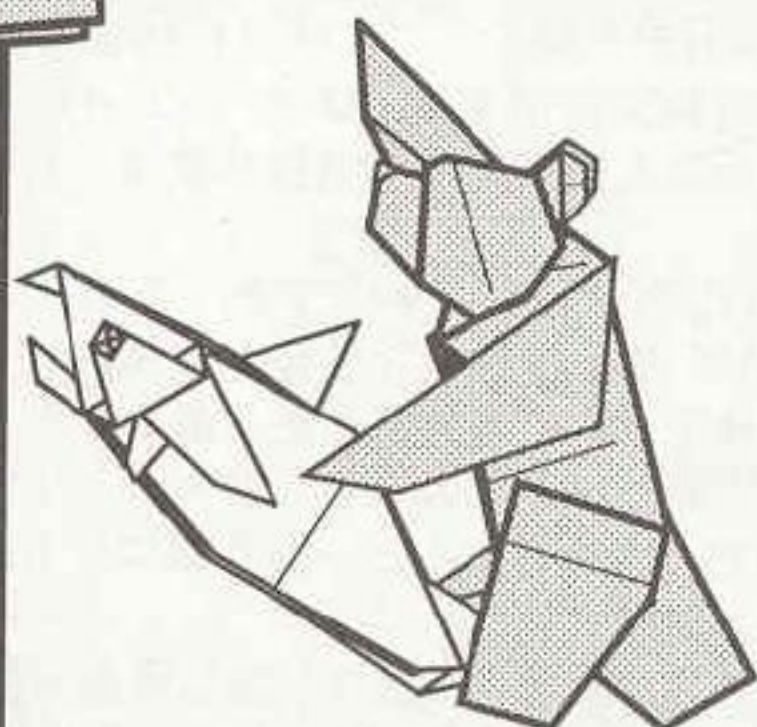
47



48



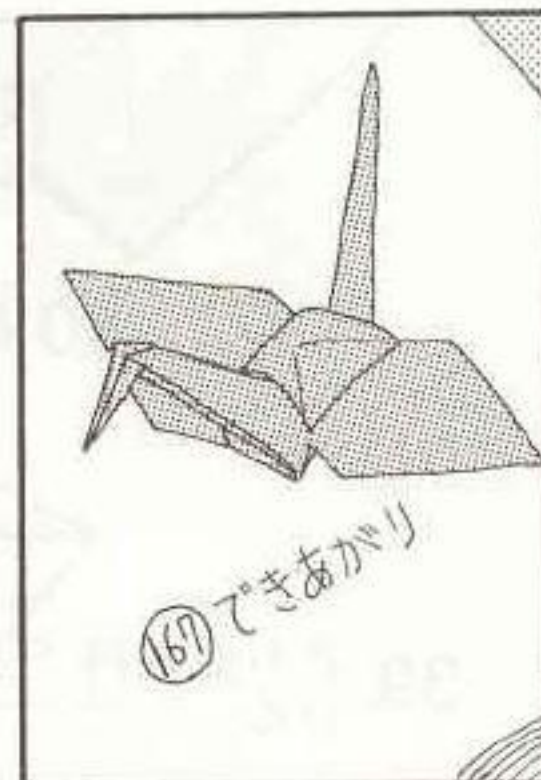
できあがり



Rabbit Ear つまみおり

コマツビデオの 折ったもんがぢ!

□親切な折り図□



Netscape

戻る
 進む
 ホーム
 最近見
 画像
 開く
 印刷
 検索
 中止

 ジャンプ:

新着情報
 おすすめ
 ハンドブック
 ネット検索
 ネットダイレクト
 ソフトウェア

探偵団ホームページから 1 (by 川崎敏和)

折り紙探偵団ホームページには、団員が気楽に参加できる「団員自由掲示板」というのがあります。折り紙に関する情報を自由に書く欄です。これまでに150もの情報が寄せられています。折り鶴関連が最も多く、20以上もあります。役立つものもたくさんあります。そこでページの紹介と参加の呼びかけをかねて、その一部を紙面で紹介していくことにします。まずは折り紙関連レストラン情報。

(00151)レストラン「オリガミ」 by Na.: 永田町キャピトル東急ホテルというところに「カジュアル レストラン オリガミ」というレストランがあったんですね。私は初めて知りました。ここの「10月特別メニュー」というのが折り鶴のデザイン入りでしたので、一応確保してあります。

(00149)喫茶・軽食 おりづる by Na.: 三重県四日市市の湯の山街道というところで、表記の名前の喫茶店を見つけました。おりづるの意匠のマッチ箱を確保してあります。>前川さん お楽しみに。

中西さんはあちこち食べ歩いているようですが、お一人ですか? おいたが過ぎるといけませんよ。つぎは高井さんから寄せられたサイエンス情報。

(00154)「折り紙のサファイア」 by 高井弘明: 科学雑誌『SCIAS (サイアス)』(朝日新聞社) 490円。11月1日発売の第3号、81ページに「折り紙のサファイア」というユニット折り紙が紹介されています。作者は長岡工業高等専門学校助教授 石原正三 氏

(00157)「折り紙」の宇宙工学、コンビニに by 高井弘明: 科学雑誌『SCIAS (サイアス)』(朝日新聞社) 490円。11月15日発売のNo. 4、10ページに「『折り紙』の宇宙工学、コンビニに」という記事があります。三浦公亮先生と缶コーヒーのダイヤカット缶が紹介されています。「今後は、ボンと開くと隠れていたダイヤカットが鮮やかによみがえるようなビールの缶も開発していく予定という。」もう一歩進んで、飲み終わると、折り鶴になる缶って、できないでしょうか。

石原さんは物理の先生で、結晶構造の説明に折り紙を利用しておられます。この夏、私は水晶の折り紙にはまりました。ダイヤカット缶は九州の西の果て佐世保にはまだ伝来しておりません。でも魚が安くて旨いからいいもん。

文書: 完了
 14

「吉野一生基金」設立決定

(趣旨)

1996年8月11日、若手折り紙作家吉野一生さんが逝去されました。今年初めに、癌が発見されてあっという間の出来事でした。吉野一生さんの作品集、折紙探偵団新聞、季刊を、海外の折り紙コンベンションへの積極的な参加、などを通じて、吉野一生さんの才能と努力は世界中の多くの折り紙愛好家に認められ、この度の急逝には深い悲しみと、失われた才能を惜しむ声が広がっています。

折紙探偵団では、ひとりの作家として、また、折紙探偵団の中心メンバーとして、これからも活躍が最も期待されていた吉野一生さんを偲び、彼の才能と努力をこれからの若い折り紙愛好家に伝えるために、右の要領で「吉野一生基金」を設立することといたしました。

このため、一般からの募金を募集したいと考えております。

多くの折り紙愛好家の皆様のご賛同とご協力をお願い申し上げます。

郵便振替は

00190-3-727623 番

(規約) 原案

1. 名称 「吉野一生基金」

2. 活動目的

海外の若手折り紙作家を日本へ招待し、折り紙界の国際交流を支援する。

3. 運営方法

(1) 招待する海外の折り紙作家の選考は、定められた「選考委員会」が行う。

(2) 「選考委員会」のメンバーは、折紙探偵団定例会により決定する。

(3) 「選考委員会」は、各国の折り紙協会の推薦や内外の識者のご意見を参考にして、招待する海外の折り紙作家を選定し、理由書を作成する。

(4) 招待とは、渡航にかかる往復の旅費と「折紙探偵団コンベンション」への参加費・懇親会費などの支給を意味する。

(5) 一度の招待者は、一名とする。

(6) 招待を受けたものは、「折紙探偵団コンベンション」で講習を行うこと。

(7) 招待を受けたものは、来日中の活動についての報告書を作成すること。

(8) この基金の活動費用は、

・「折紙探偵団コンベンション」で行われるオークションの売り上げ。

・吉野一生さんの折紙活動で得られた預金、著作の印税の一部。

・この活動に賛同するものの寄付金。によって構成される。

「選考委員会」は、会計に関する報告を折紙探偵団新聞誌上および寄付金納付後3年以内の希望する寄付金の出資者に対しては、受領書とともに書面で行う。この報告は、1年に1度以上とする。

(9) この規約は、折紙探偵団定例会により年に1度改訂でき、改訂内容は、折紙探偵団新聞誌上で告知する。寄付金納付後3年以内の希望する寄付金の出資者には、書面で通知する。

(10) 一般の募金は、本基金の趣旨と本規約の内容に賛同するものから不定期に募集する。

人生山折り谷折り八十八年

(by 前川淳)

去る10月25日、神田の学士会館で、「折り鶴における内心の定理」などでも有名な物理学者・伏見康治氏の米寿の祝いがあった。折り紙関係者で参加したのは、笠原邦彦氏と、山口、布施、前川の夫妻である。他の出席者は、名誉教授だの国会議員だの、偉いひとやエラソーなひとばかりで、たぶん筆者前川が最年少という顔振れであった。スピーチに立ったひとが「平和条約締結の頃」などと言っていたが、わたしなんぞにとっては完璧に歴史の話である。伏見氏と話すことは、20世紀の日本の科学に向き合うようなものなのだ。

そんな会のしめくくりが、満枝夫人による正八面体の折り紙の立体化

と、伏見氏による「飛ぶ折り鶴」「飛ばたて飛ぶ折り鶴」の飛行という折り紙のパフォーマンスであったのは愉快だった。現在伏見氏はソヴィエト崩壊後のロシアの科学者の支援活動をおこなっているが、それとの関連で、シベリアの凍結された死体からマンモスを復活させるという、ほとんど「ジュラシックパーク」のような、インド象もびっくりの話題もあった。戦後は50年、人類はウン万年、21世紀まではあとわずか。伏見先生、いつまでもお元気で。

(標題の「人生山折り谷折り」は「をる」石川さんのアイデアを借用した。)

「吉野一生さんを偲ぶ会」のお知らせ

吉野一生さんを偲び、「吉野一生」さんを偲ぶ会を開催いたします。内容は、以下の通りです。

日時 1997年2月23日
午後2時から6時
場所 文京区民センター

内容

- 1) 吉野一生さんの生前のビデオ上映。
- 2) 吉野一生さんの代表作、ティラノサウルス、トリケラトプス全身骨格を参加者全員で完成させる。
- 3) 吉野一生さんへの贈る言葉。

会費等は、次号でお知らせします。

なお、当日は、おりがみはうすでの「吉野一生遺作展」の期間中です。

おりすじ

私の野望

小林卓夫

もともと折り紙に興味を持ったのは数年ほど前で、それ以前からエッシャーの絵が好きだったんだけど、不可能な立体とか、フラクタルなどにも興味があった。

ある時、不可能な立体って折り紙で作れるんじゃないか？という発想から、自己流でいろいろ折っていった。そのころは立体の展開図みたいなものを描いて、切り取って組み立てるようなことをしていた。

会社では勤務時間中に折っている。一応、研究職なので、「基礎研究」「4次元空間のベクトルの可視化」と称して。まあ気分転換にもなるし、遊び心がなければすぐれた研究はできないという説に乗っかることにしよう。

あんまりちゃんとした形のもの作ってないんで、まわりの人は僕が何やっているのかわからないみたい。以前、会社の女の子から、「ここに蟻さん這わせて糸通すの？」などと言

われた。そういえばそんな形……。だけど、この種のもののはちょっと変わった形のものを作ろうとすると、とたんに作図が難しくなっちゃう。なぜか積分の計算が出てきた…僕は四則演算しかできないのに。(いいソフトがないかな)

そんな僕の様子を見て、知人の作曲家の先生が茶谷正洋さんの本をプレゼントしてくれた。ふうん、折り紙建築なんていうものがあるんだ。この方向に進もうか？しかし、だんだん仕事サボれなくなってきたな。^^; その後ひょんなことから、折り紙探偵団のことを知った。よし、これからは不切り正方形一枚折りを究めるか……。？(まだ全くの初心者です)

しかし、最近はピアノに熱中している。ローランドのHP-2800を買っちゃった。目指すはアシュケナージ、ダン・タイ・ソン……。野望はふくらむ。(実はまだ初級レベルです)

ギャラリーおりがみはうす 作品展示案内

- ◎「おりがみdeツリー」
11月25日(月)～12月26日(木)
 - ◎「布施知子作品展」
1月6日(月)～2月中旬まで
 - ◎「吉野一生遺作展」
2月中旬から
- 「吉野一生さんを偲ぶ会」にあわせ、吉野さんお手折りの作品を集めて展示します。詳細はおりがみはうすまでおたずね下さい。

折紙探偵団定例会のお知らせ

12月は定例会はありません。
97年1月の例会は1月25日(土)文京区民センターです。時刻については、97年になってからお電話でお聞き下さい。

探偵団専用電話ができました

折紙探偵団専用電話の番号は以下の通りです。03-5684-6080

ご出席される方は12月16日(月)までに、折紙探偵団までご連絡下さい。今年は案内ハガキは出しませんのでご注意下さい。



迷探偵 オリン君

作：山梨 雅弘

折紙家の秘室の巻



※前川定理でやんす。



発行・折紙探偵団
〒112 東京都文京区白山1-33-8-216
ギャラリーおりがみはうす内
Phone (03) 5684-6080
発行人・西川誠司
編集人・岡村昌夫

折紙探偵団忘年会のお知らせ

恒例の忘年会です。今年もビンゴ大会を予定しています。

場所：文京区民センター3階 3-C
日時：12月21日(土)
午後6時～8時半
会費：一般5000円、
学生・子供4000円
(ビンゴ大会参加費も含む)